

16.7  
265

606.7-To465ウ

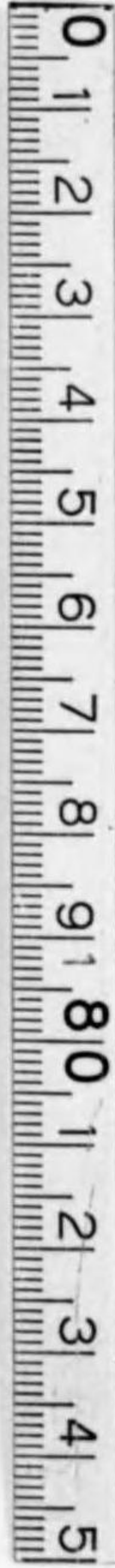


1200500748018

新體制下  
に於ける

産業工藝品  
展示會報告書

東京府立工業獎勵館編



始



90  
10

企畫院・情報局・商工省 後援  
東京府立工業奨励館 主催

新體制下  
に於ける  
産業工  
藝品展示會報告書



東京府立工業奨励館

606.7  
To. 465



新體制下  
に於ける  
**産業工藝品展示會報告書**

目次

序	一頁
一、展示會開催に關する協議會	二
二、趣旨規則	五
三、出品受付及出品者名	七
四、出品鑑査並に審査委員會の開催	九
五、受賞者氏名	一一
六、會場設備及陳列	一一
七、觀覽者の招待並に宣傳	一三
八、展示會出品目錄	一八
九、經過(日誌)	三〇
一〇、附錄	三三
併設講演と映畫の會 講演速記録	三三



907  
169

### 序

本館は昭和十五年以來工藝部を設置し、専ら東京府下に於ける産業工藝品の改善發達に盡して來りしが、今や邦家未曾有の難局に直面し、國防國家建設の聖業達成に邁進の秋、時局認識の下に銃後産業組織も既往に於ける觀念を是正し質實剛健以て一意報國の赤誠を捧ぐべきは論を俟たざる所である。

茲に生活必需工藝品が國民生活に及ぼす影響の至大なるに鑑み斯業の革新的氣運を振興せしむべく企畫院、情報局、商工省の熱誠なる御後援の下に本館主催を以て昭和十六年二月二十日より同月二十七日迄日本橋三越本店に於て「新體制下に於ける産業工藝品展示會」なる名稱の下に開催し所謂生産者たる中小工業者の心構を示すと共に需要者たる一般大衆の新生活標準の動向を指示し併せて輸出工藝の振興と新日本産業文化の昂揚を目指して之が開催を爲したるものである。

- 一、戰時必需資材の確保及低物價政策遂行の必要より發行せられた今次の諸制限令の趣旨目的に協力すること。
- 一、徒に萎靡し或は粗製濫造に流れ或は無味乾燥なる商品に墮するを避け吾人の日常生活に健全明朗なる慰安と潤を與へしむること。
- 一、輸出産業工藝品として我國獨自の精神を發揮し商品として相當量製作可能にして且將來性あるものであらしむること。

産業工藝品展示會籌備會



# 一、展示會開催に關する協議會

展示會開催に先立ち之が根本方針を確立する爲、後授各官廳の指示を仰ぐと共に趣旨規則等を協議する爲に一月十日丸の内中央亭に於て關係官廳より係官の派遣を請ひ斯業關係同業組合、工業組合代表者並に民間有力會社、商店、工場代表者の參集を求め左の通り指示並に協議事項の討議を行ひたり。

## 挨拶

東京府立工業獎勵館工務部主任 大宮 秀次

## 工業組合代表者

東京高等工藝學校木村工藝科長 木 槍 恕一  
 東京府工務課地方商工技師 梨 谷 了 祐  
 東京高等工藝學校圖案科長 宮 下 孝 雄  
 東京高等工藝學校教授 豐 田 勝 秋  
 株式會社三越常務取締役 能 勢 昌 雄  
 日本優良物産協會理事長 山 崎 龜 吉

## 説明

商工省工藝指導所長 國井喜多郎  
 東京高等工藝學校木村工藝科長 木 槍 恕一

## 協議事項

- 一、會名、趣旨、規則の件 別紙ノ通決定
- 二、展示會豫算の件 本館委任
- 三、鑑査、審査の件 本館委任
- 四、審査委員依頼の件 本館委任
- 五、陳列、宣傳其他の件 本館委任

## 來賓

企畫院調査官 藤 瀬 五 郎  
 情報局囑託 小 松 孝 顯  
 同 坪 内 正  
 商工省化學局技師 谷 内 治 橋  
 商工省工藝指導所長 國 井 喜 多 郎

## 同業組合代表者

東京タオル工業組合 松本見二郎  
 東京内地靴下工業組合 小林 雅一  
 東京輸出金屬器工業組合 岡 田 與 吉  
 東京美術銀器工業組合 中 戸 善 吉  
 東京セロイド編織工業組合 戸 谷 佐 治  
 東京靴業工業組合 長 谷 川 辰 藏  
 東京袋物工業組合 田 中 與 會 一  
 東京ガーター製造工業組合 坂 本 健 次 郎  
 東京輸出布帛製品工業組合 宮 入 正 則  
 東京洋傘工業組合 中 村 證 三  
 東京漆器蒔繪工業組合 藤 卷 琢 磨  
 東京造花工業組合 今 泉 成 之  
 東京漆器工業組合 中 澤 源 一 郎  
 八王子輸出織物組合 長 谷 川 信 太 郎  
 木 崎 茂 重

## 當業者及關係者

東京牙彫商同業組合 青 沼 百 治  
 東京袋物同業組合 長 谷 川 五 郎  
 東京小間物化粧品卸商同業組合 小 林 富 次 郎  
 東京セロイド同業組合 萩 村 龜 太 郎  
 東京西洋家具同業組合 山 本 金 治

寺本商店 安 黒 才 一 郎  
 永峰セロイド工業株式會社 永 峰 孝 雄  
 福島セロイド工業所 福 島 松 五 郎  
 寺 尾 商 店 寺 尾 備 僊  
 鳥 羽 商 店 鳥 羽 三 郎  
 松本簞笥店 松 本 彌 三 郎  
 木村實業株式會社 木 村 實 業 株 式 會 社  
 原 島 啓 次 郎 原 島 啓 次 郎  
 深 井 惣 吉 深 井 惣 吉  
 井口武三郎 井 口 武 三 郎  
 各務クリスタル製作所 各 務 ク リ ス タ ル 製 作 所  
 村松庄太郎 村 松 庄 太 郎  
 森 田 滋 森 田 滋  
 佐々木硝子店 佐 々 木 硝 子 店  
 清洲商店 清 洲 商 店  
 東京芝浦マツダ工業株式會社 東 京 芝 浦 マ ッ ダ 工 業 株 式 會 社  
 山 田 德 兵 衛 山 田 德 兵 衛  
 吉徳商店 吉 徳 商 店  
 理研アルマイト工業株式會社 理 研 ア ル マ イ ト 工 業 株 式 會 社  
 原 田 新 藏 原 田 新 藏  
 阿波屋本店 阿 波 屋 本 店  
 山 崎 嚴 山 崎 嚴  
 東洋プロテック株式會社 東 洋 プ ロ テ ッ ク 株 式 會 社  
 株式會社松崎東京營業所本店 株 式 會 社 松 崎 東 京 營 業 所 本 店

## 本館關係者

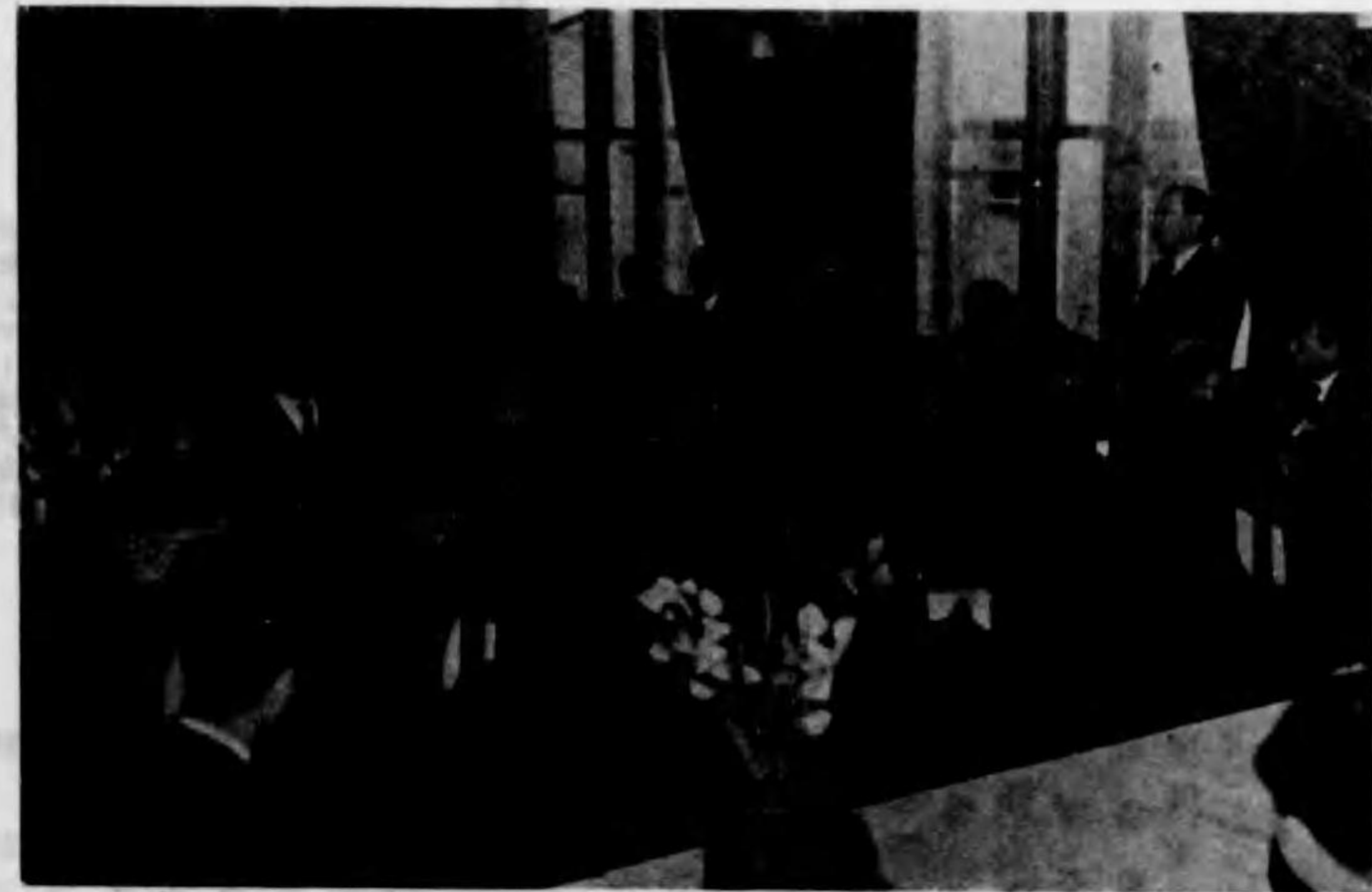
森岡ステンレス工業株式會社 森 岡 ス テ ン レ ス 工 業 株 式 會 社  
 共和レザー株式會社 共 和 レ ヅ ア ー 株 式 會 社  
 代用品工業協會 代 用 品 工 業 協 會  
 水谷商店 水 谷 商 店

三越本店企畫係長 三 越 本 店 企 畫 係 長  
 同 商品研究部 同 商 品 研 究 部

館 長 松 田 竹 太 郎  
 工務部主任 大 宮 秀 次  
 庶務部主任 石 井 勝 治  
 岩 本 朝 彦 岩 本 朝 彦  
 城 戸 夏 男 城 戸 夏 男  
 山 田 孝 一 山 田 孝 一  
 松島勝二郎 松 島 勝 二 郎  
 手塚留吉 手 塚 留 吉  
 安孫子清水 安 孫 子 清 水  
 神原亮一 神 原 亮 一  
 田 島 清 次 田 島 清 次  
 淺川健一郎 淺 川 健 一 郎



商工省工藝指導所長 國井喜多郎氏の説明



協議打合會の盛況

## 二、趣旨規則

### 趣旨

今や國家總力戰新體制により新東亞建設の聖業達成に銳意邁進の秋、時局認識の下に我が國民生活も既往に於ける觀念を是正し一大革新の意氣を具現し新時代に即應し質實剛健以て一意報國の赤誠を捧ぐべきは論を俟たざる所である。

此の機會に於て奢侈品等の製造販賣制限或は戦時必需資材の使用禁止制限、公定價格の制定等の趣旨目的に協力し新たに國防國家體制下に於ける日常生活に適切合理的なる新工藝生産品を展示して工藝報國熱意の一端を表示するは工藝産業人の責任たるのみならず、最も時宜に適したる實際運動として必要に迫られつゝあることを痛感するものである。

熟ら惟るに現下の工藝生産品は稍もすれば今次の諸制限規則の下に徒に萎靡し或は粗製濫造に流れ工藝生産品として其の目的とする實用價值と美的要素の併立を忘れ乾燥無味なる商品に墮する恐れなきを保せず斯くては工藝品が吾人の日常生活を豊富ならしめ健全にして最低の生活慰安品たるの使命を没却するものと云はねばならぬ。

本會の目的とするところは即ち産業的工藝が戦時體制下に於て凡ゆる制限範圍を嚴守し、しかも積極的に最高動向を指示せんとするにある。茲に本會は斯道精進の各位に對し我國最高文化を表徴する藝術的美術工藝としての一品作或は又單に徒に虚飾を施したる自由主義的商業に依つてのみ作られたる工藝品の何れにも偏せず眞に上述の趣旨に基く新體制下國民大衆の生活文化に貢獻すべき健全明朗なる産業工藝品の多數出品を登壇し各位が振つて世人に新規格による工藝品の動向を示されんことを熱望して已まざるものである。

尙本會に第二部を設け輸出向工藝品の展示を行ふこととした。輸出を

目的とする工藝品は云ふまでもなく資材、價格等の制限に自から内地向とは趣を異にするものであるが、これも従來の通弊たる徒に歐米文化の模倣にのみ止まることなく我國獨自の精神を發揮し且相當量の製作可能なるものを主とし以て輸出工藝の新研究試作見本を展示する事を主眼として居る。

希くは大方の各位に於かれても本會の目的に賛同せられ東亞の盟主たる日本文化宣揚に寄與せらるゝ所あらんことを。

### 新體制下に於ける 産業工藝品展示會規則

- 一、目的 本會ハ新體制下ニ於ケル日常生活ニ適應スル新産業工藝品ヲ展示シ積極的ニ其動向ヲ示スト共ニ輸出向新研究工藝品ヲ展示シ公衆ノ批判ニ供シ改善ニ資スルヲ目的トス
- 一、主催 本會ハ東京府立工業獎勵館之ヲ主催ス
- 一、會期 本會ノ會期ハ昭和十六年二月二十日ヨリ同月二十七日迄トス
- 一、會場 日本橋區室町 三越 本店
- 一、役員 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
  - 會長 一名 東京府立工業獎勵館長
  - 審査委員若干名 會長之ヲ依囑ス
  - 參與 若干名 出品關係業者中ヨリ會長之ヲ依囑ス
- 一、出品 右ノ外顧問ヲ置クコトアルヘシ
  - 本會ノ出品ハ本會ノ趣旨ニ賛同シ東京府下ニ於テ製作セラレタルモノニ限リ左ノ二部ニ分チ類別ニ該當スルモノタルヲ要ス
  - 第一部 新國民生活必需産業工藝品
  - 第二部 輸出向新研究工藝品

第一類 染織布帛加工品  
 第二類 硝子加工品及陶磁器  
 第三類 セルロイド及合成樹脂加工品  
 第四類 金屬加工品  
 第五類 漆器及塗裝品  
 第六類 木竹加工品  
 第七類 皮革、擬革加工品  
 第八類 新興資材加工品  
 第九類 他ノ類別ニ屬セサル工藝品

一、出品申込  
 本會ニ出品セントスル者ハ昭和十六年二月五日迄ニ別紙書式ニ依ル出品申込書二通ヲ東京府立工業獎勵館ニ提出スヘシ

一、出品搬入  
 出品物ハ二月十二日ヨリ同月十三日マテノ間麴町區丸ノ内三ノ一府立東京商工獎勵館大講堂ニ搬入スヘシ

一、出品搬出  
 出品物ハ本會閉會後二日以内ニ搬出スヘシ

一、出品陳列  
 出品物ノ陳列ハ主催者ニ於テ之ヲ行フ

一、鑑査  
 出品物ハ陳列ニ就テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス  
 出品物ハ凡テ之ヲ鑑査シ合格シタルモノ、ミヲ陳列ス  
 鑑査不合格品ハ本會ノ通知ニヨル指定期日ニ搬出スヘシ

一、審査  
 出品物ハ凡テ之ヲ審査シ本會ノ目的ニ合致シ優秀ナルモノニ對シテハ左記賞状及賞金ヲ授與ス  
 優良賞 賞金 五拾圓  
 有功賞 賞金 參拾圓  
 褒狀

出品人ハ鑑査、審査ノ結果ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス  
 出品物ハ本會ニ於テ相當ノ保護注意ヲ加フヘシト雖モ

一、賣約  
 第一出品ハ賣約ニ應スルコトヲ得ルモ第二出品ハ輸出見本トシテ特ニ適當ト認メタル場合ノ他賣約セス

一、經費  
 出品ノ搬入搬出ニ要スル費用ハ出品人ノ負擔トシ他ニ經費ヲ要セス

一、附則  
 本則ニ特ニ規定セサル事項ニ就テハ其ノ都度本會ニ於テ之ヲ定ム

出品申込書 (本書ハ二通提出セラレタシ)

私儀賞館主催 新體制下 産業工藝品展示會規則ニ依リ左記目錄ノ通出品致度此段申込候也

昭和十六年 月 日

東京府立工業獎勵館長 松田竹太郎殿

住 所  
 職 業  
 出品人氏名  
 電 話 局 番 号

通 番 部 類 品 目 小賣價格 備 考

注意 出品ノ申込ハ二月五日迄トシ出品物ノ搬入ハ二月十二、十三ノ兩日限リ  
 非賣品ハ其旨備考欄ヘ記入ノコト、出品目錄調整スヘキニ依リ明瞭ニ記入セラレタシ

### 三、出品受付及出品者名

出品者ノ對照は規則に依り東京府下に於ける關係當業者に限定シ、關係同業組合、工業組合並に團體を介シ或は直接當業宛約四千通の出品勸誘狀を發送すると共に積極的に本館係員を派して本會の趣旨目的に適切なる品種の蒐集に努力せり。出品の搬入受付は二月十二、十三の兩日府立東京商工獎勵館大講堂にて施行す。  
 總受付點數八百九十點、人員百六十五名にして部類別の受付成績次表の如し。

#### 産業工藝品展示會出品受付成績表

類別	名 稱	第一部		第二部	
		點數	人員	點數	人員
第一類	染織布帛加工品	100	5	57	2
第二類	硝子加工品及陶磁器	6	6	2	8
第三類	セルロイド及合成樹脂加工品	6	1	7	7
第四類	金屬加工品	1	4	13	9
第五類	漆器及塗裝品	6	1	7	8
第六類	木竹加工品	1	1	7	5
第七類	皮革、擬革加工品	6	1	8	2
第八類	新興資材加工品	1	1	1	1
第九類	他ノ部ニ屬セザル工藝品	6	1	9	2
計		163	23	118	62

### 出品者名簿

#### 第一部 新國民生活必需産業工藝品

品 目	氏 名	住 所
ネクタイ	株式会社 高瀬商店	荒川區日暮里町三丁目七二
ハンドバック	合資会社 中村清商店	淺草區淺草橋三丁目二五
服装雜貨	坂本健次郎	芝區金杉町二丁目七
服 地	富田織物工場	八王子市平岡町三三
買物バック	東京巧 藥合	淺草區藏前三丁目一〇四
實用バック	長谷川五郎商店	淺草區小島町一丁目一
シャツ	鎌矢シヤツ製造所	日本橋區大傳馬町三丁目一
朝 子	東京支店	淺草區向原町二丁目二
朝 子	杉田龜藏	淺草區藏前一丁目三
戰 間 朝 子	山本吉太郎	八王子市元横山町三四八
ネクタイ洋傘地	合資会社 九信織物工場	八王子市小宮村四野中野三二九
織 物	立川伊十郎	南多摩郡小宮村四野中野三二九
織 物	高木國之助	南多摩郡小宮村四野中野二五八
織 物	合資会社 澁市織物工場	八王子市平岡町二五
織 物	株式会社 塚三織物工場	八王子市小門町三二
織 物	株式会社 一十郎	南多摩郡由井村小比企一
織 物	平忠織物合名会社	八王子市大横町六七
織 物	東京府染織試驗場	八王子市明神町
織 物	東京府染織試驗場	本所區錦糸町四丁目一〇
織 物	硝子製品村松庄太郎	神田區美倉町三
硝子製品	木村惠之助	深川平井町一丁目四
硝子製品	坂井智彦	日本橋區馬喰町四丁目九
硝子製品	佐々木源藏	日本橋區馬喰町一丁目九
硝子製品	木村寅吉	神田區和泉町三丁目三ノ二
硝子製品	木村寅吉	日本橋區馬喰町三丁目三ノ二
合成樹脂加工品	寺本圭助	淺草區柳橋二丁目四
柳バンド	山崎福太郎	足立區千住中居町九二





新興代用資材を活用したものであり、工作、形式、意匠其他に可及的資材の無駄なく堅牢なるもの。

第二部出品は資材を自由とするも他は内地向と凡そ同一の考である。

二、創作 價値

第一部出品は其の作品の性質に從ひ可及的科學的に取扱はれたるもので技巧意匠に新味あり、所謂簡素美に重點をおき用即美に立脚し、形状と意匠の調和を保てるものであること。

第二部出品は必ずしも簡素美でなくとも差支ないが徒に過去の輸出向製品に多く認められる華美にして品位なきものは排除す。

三、適正 用途

用途明確であり、其用途に適正なる形状構成、サイズと思はるゝもの。

四、適正 價格

物價統制の趣旨に協力し生産コストを根底に於いた商品としての價格凡そ適正なりと思はるゝもの、價額に比してより充分價値あるものは特に選定する事。

五、規 格 化

從來より一層單純合理化され、用途簡易にして美を失はざるもの。

- 産業工藝品展示會審査委員名簿 (順不同)**
- 企業院調査官  
情報局  
商工省化學局商工技師  
商工省工務指導所長  
文部省社會局、文部省囑託  
東京府工務課長  
同工務課地方商工技師  
東京高等工藝學校工藝圖案科長  
同  
物價統制課長  
木材工務科長
- 寺尾 長谷川 五郎 商店  
井 正 三 商店  
林 福 三 商店  
小 井 三 商店  
塚 本 三 商店  
丸 信 三 商店  
中 村 清 和 商店  
坪 内 新 和 商店  
水 谷 恒 太 商店  
山 崎 福 太 商店  
松 井 織 物 株式會社  
八 王 子 織 物 株式會社  
岡 本 一 太 商店  
福 田 五 太 商店  
吉 田 五 太 商店

- 東京府立染織試驗場長  
府立東京商工獎勵館企畫部長  
東京府立工業獎勵館長  
同  
株式會社 三越常務取締役  
日本優良物産協會理事長  
大倉陶園支配人 技師長  
東京府立工業獎勵館工務部 東京府商工技師
- 授 櫻 田 勝 秋  
木 暮 謙 三 郎  
松 浦 誠 之 郎  
大 宮 秀 次 郎  
能 勢 昌 雄  
山 崎 龜 吉  
日 野 勝 治  
石 井 朝 彦  
岩 本 朝 彦  
城 戸 夏 彦  
同 田 孝 一

産業工藝品展示會出品鑑査審査成績表

類別	名 稱	第一部		第二部	
		受付件数	人員	受付件数	人員
一	染織布帛加工品	100	4	17	3
二	硝子加工品及陶磁器	6	1	4	1
三	セルロイド及合成樹脂加工品	1	1	1	1
四	金屬加工品	1	1	1	1
五	漆器及塗裝品	1	1	1	1
六	木竹加工品	1	1	1	1
七	皮革、振革加工品	1	1	1	1
八	新興資材加工品	1	1	1	1
九	工他ノ部ニ屬セザル品	1	1	1	1
計		163	16	36	14

總受付點數八九〇點、人員一六五、鑑査合格點數三三四、人員一四

### 五、受賞者氏名

- 優 賞 (賞金五拾圓)
- 應 接 家 具 セ ッ ト  
實 用 パ ッ ク  
有 功 賞 (賞金拾圓)
- 柳 編 組 家 具  
座 機 兼 卓 子  
國 民 服 地 子  
藤 製 竹 口 ハ ン ド パ ッ ク  
代 用 皮 革 ラ ン ド セ ル  
旭 時 計 ヤ ナ ギ バ ン ド  
腕 製 コ ン ナ ギ バ ン ド  
銀 製 コ ン ナ ギ バ ン ド  
立 納 ビ ッ ク 灰 縮  
硝 子 傘 柄 血 縮  
洋 靴 子 柄 血 縮  
襪 子 柄 血 縮  
電 燈 花 籠  
水 燈 籠  
リ ン フ 表 草 履  
木 彫 花 色 塗 コ ン パ ク  
盛 木 器  
木 製 ハ ン ド パ ッ ク  
中 折 帽  
婦 人 用 手 巾
- 寺尾 長谷川 五郎 商店  
井 正 三 商店  
林 福 三 商店  
小 井 三 商店  
塚 本 三 商店  
丸 信 三 商店  
中 村 清 和 商店  
坪 内 新 和 商店  
水 谷 恒 太 商店  
山 崎 福 太 商店  
松 井 織 物 株式會社  
八 王 子 織 物 株式會社  
岡 本 一 太 商店  
福 田 五 太 商店  
吉 田 五 太 商店

### 六、會場設備及陳列

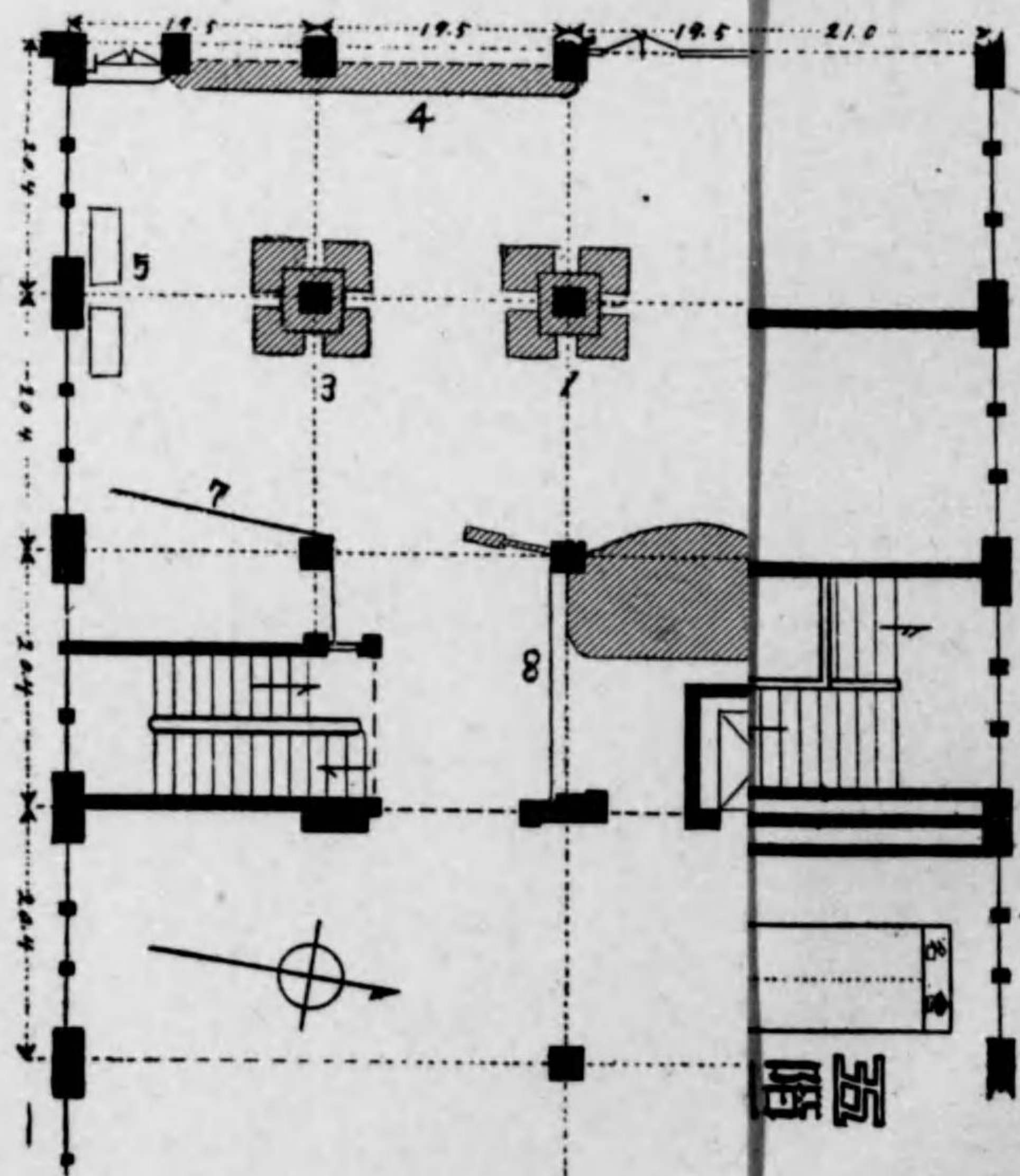
本會の開催に當り三越本店は積極的に贊助せられ、本店五階西館百五十坪の會場の提供せられ尙企畫部に於て基本設備を擔當せられしは感謝に堪へざる所なり。

二月十八日審査會場より陳列出品のみ搬入を爲し十九日圖表統計一般出品の陳列を完了す。陳列計畫は左記要領を以てす。

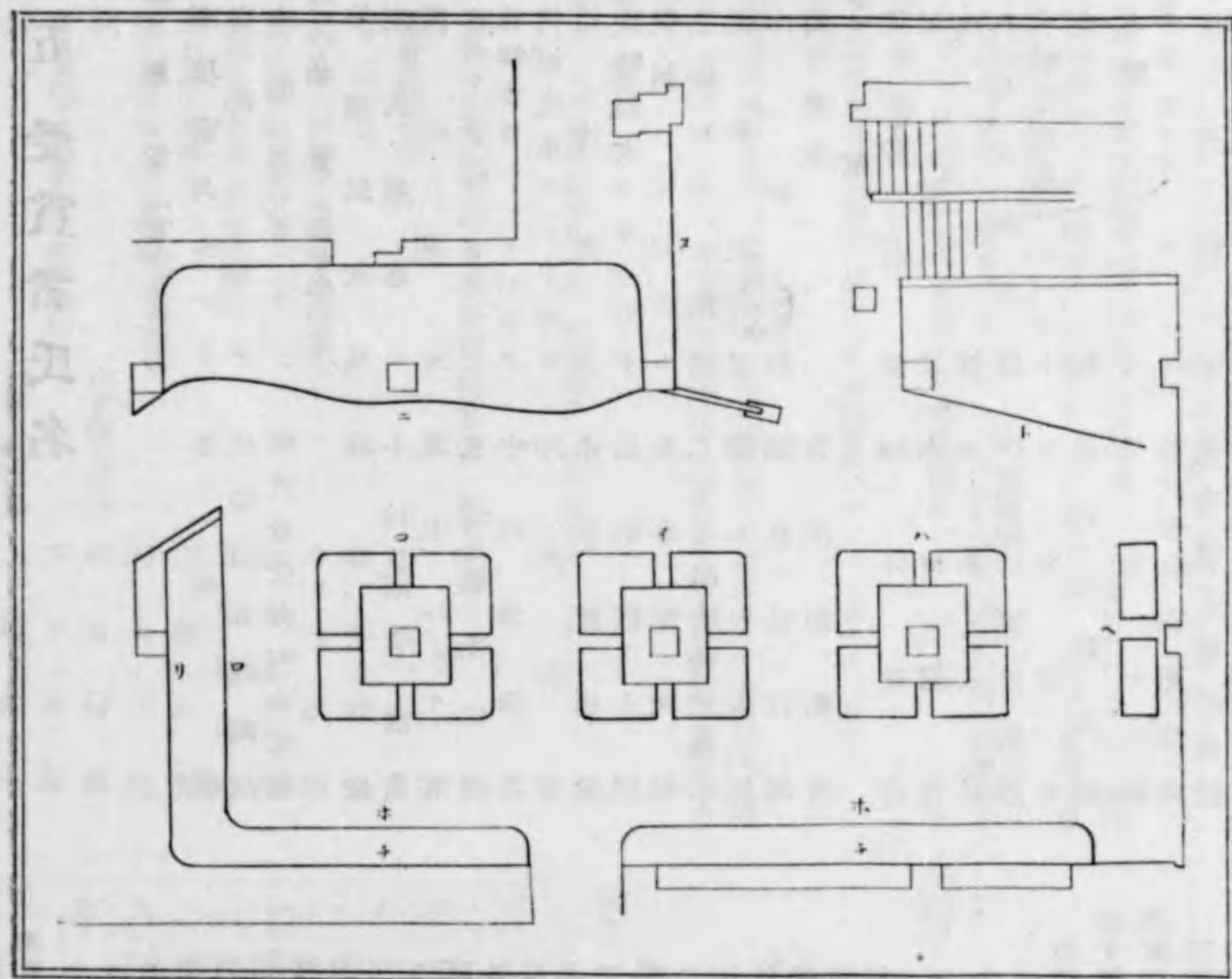
- 絹 スフ 交 織 マ フ ラ  
孔 雀 模 樣 大 皿  
コ ッ プ 黒 臺 黒 線 付  
セ ル ロ イ ド 玩 具 付  
硝 子 花 瓶  
硝 子 花 瓶  
硝 子 灰 皿  
銀 製 シ ガ レ ッ ト ケ ー ス  
カ フ ス 卸 及 ネ ク タ イ 止  
多 摩 結 城 着 尺 地  
朱 子 マ ン ガ ン 鎧 尺 地  
洋 ア ウ テ ン グ シ ャ ツ フ ト 型  
裂 地 ハ ン ド パ ッ ク  
フ ァ イ バ ー ・ ス カ ー ツ ケ ー ス  
改 良 耐 斗  
買 物 用 ツ 斗  
總 桐 葉 斗  
住 宅 用 ツ 斗  
婦 人 用 七 ツ 捕 ヒ 家 具  
子
- 八王子雜貨物輸出振興會  
木村 惠之助  
佐々木 源藏  
岡本 村實  
岡本 村實  
岩城 硝子株式會社  
藤井 象嶽株式會社  
宮野 千代  
森岡 ステンレス工業株式會社  
柏瀬 啓弼商店  
高木 國敬  
塚三 織物工場  
丸信 織物工場  
蝶矢 シヤツ製造所東京支店  
株式會社松崎東京營業所本店  
小室 義一  
長谷川 朝五郎  
松本 朝重  
鳥羽 千代田製帽所  
東京市千代田製帽所

コロンビア館  
關係官廳新聞雜誌社  
其他本會關係者

- |        |     |
|--------|-----|
| 1 入賞作品 | 5 海 |
| 2 内地向  | 6 家 |
| 3 輸出向  | 7 圖 |
| 4 指導作品 | 8 趣 |



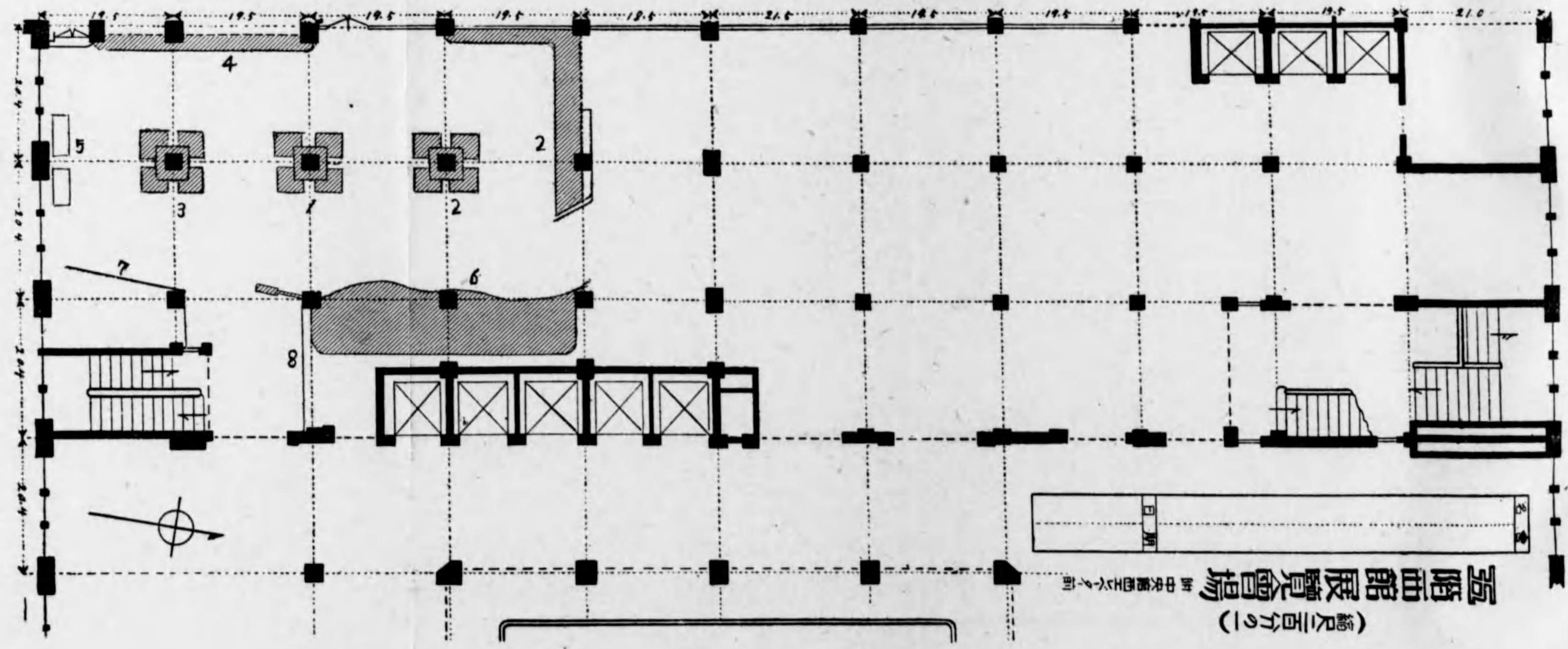
の店舗・工場或は組合事務所へ掲載せしむるに共に左記東京鐵道局管内主要驛構内に表示せり。



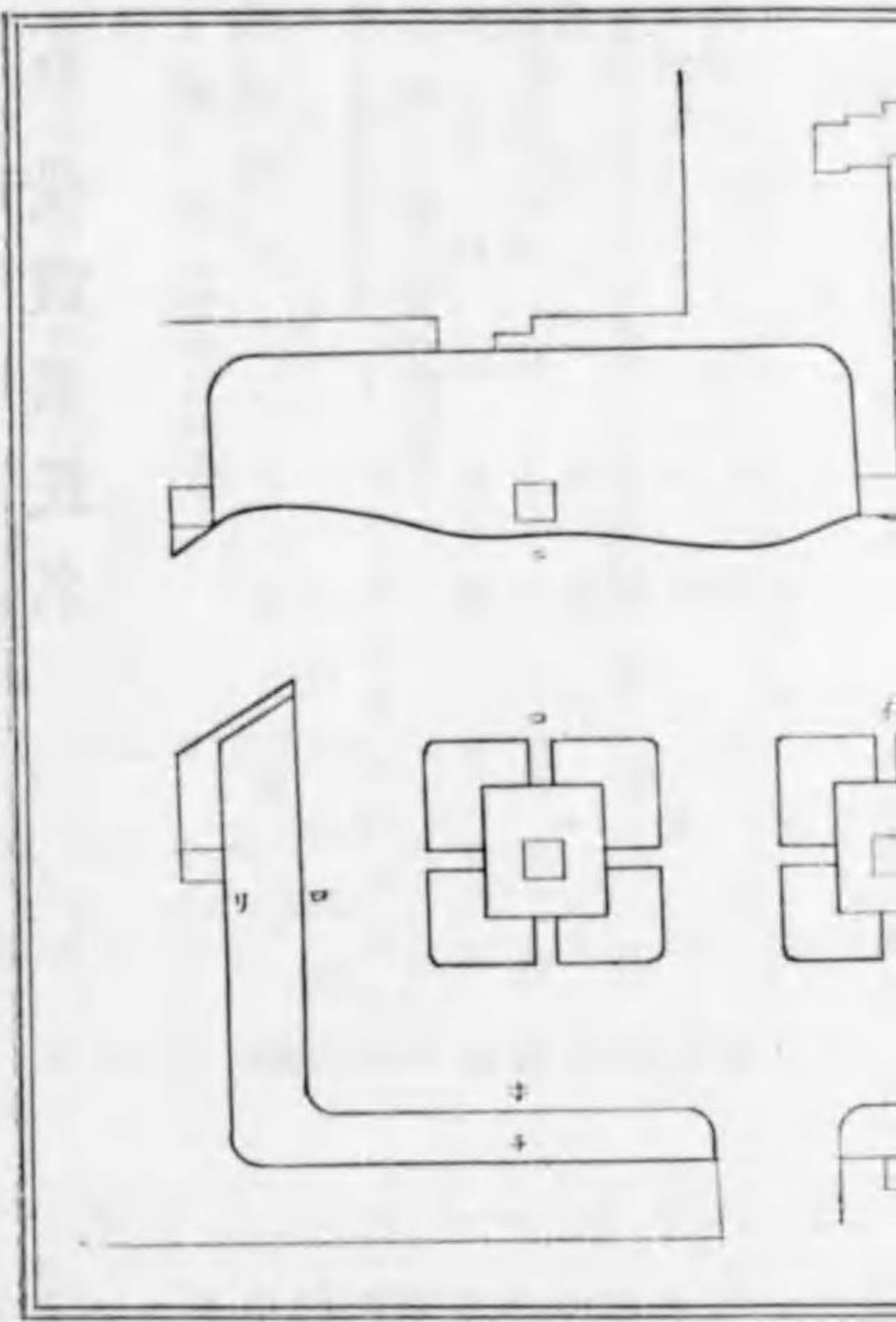
展示會場平面圖

又	リ	チ	ト	へ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ
本館業務案内及	禁製物品名	工藝動向	圖表	海外參考品	本館指導作品	家具	輸具	内地	入賞作品

- 1 入賞作品
- 2 内地向
- 3 輸出向
- 4 指導作品
- 5 海外参考品
- 6 家具
- 7 圖書
- 8 趣意書

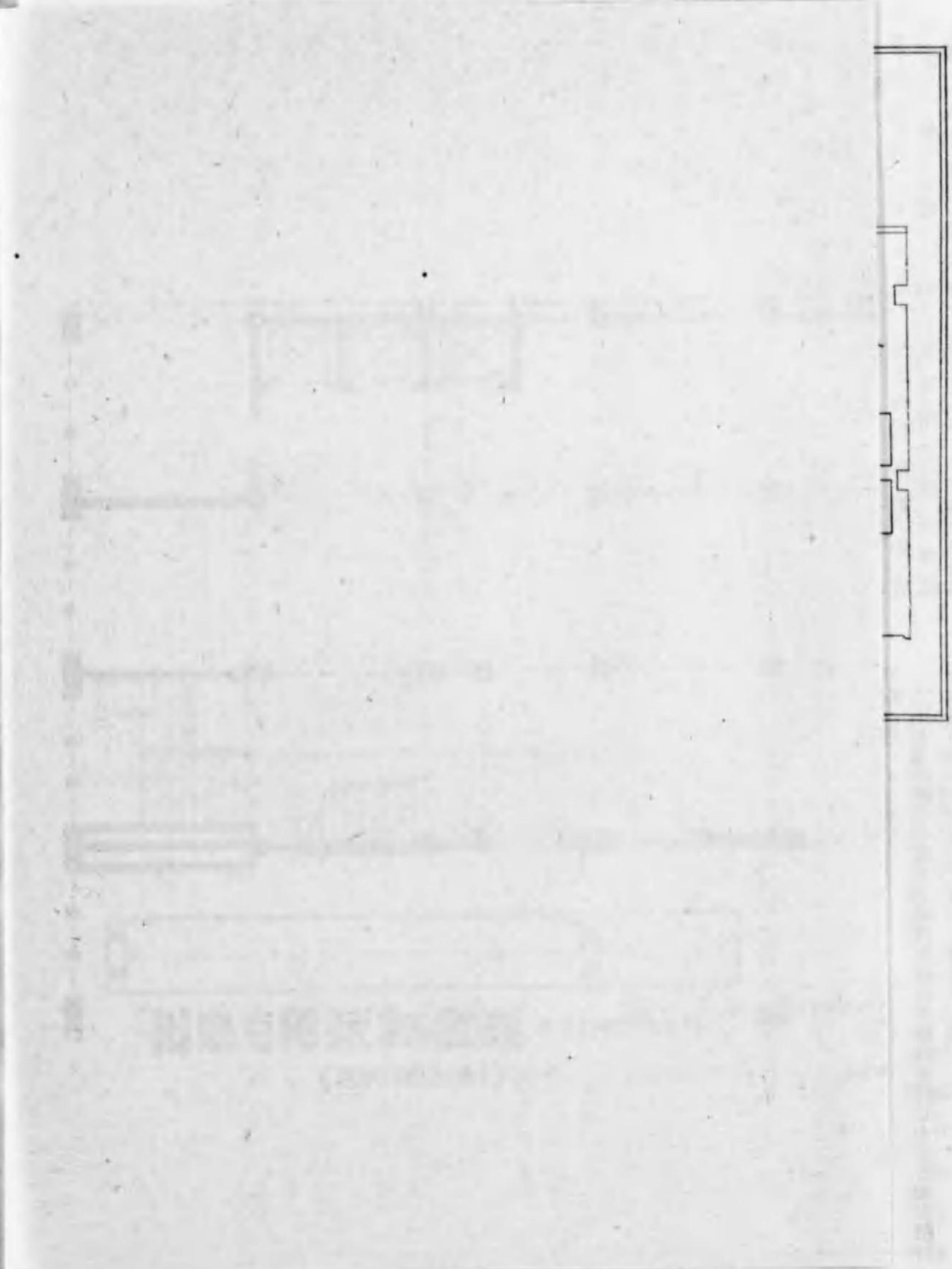


（縮尺五分の一）  
東京国立近代美術館展覧會場  
附中央圖書室入口前



又  
本館業務案内及  
リ  
禁製書名  
子  
藝藝品動  
ト  
圖藝動向表  
ノ

展示會場平面圖



展示計畫

- 一、鑑査合格品は大體種類別に分けて出品人名を付し陳列す
- 二、目標に最も近い輸入賞品ものは別に選擇して一ヶ所に陳列し入賞品として明指すること
- 三、極度に實用のみを強調する用器の參考として軍隊用小食器、航空旅客機用食器等を參考として陳列すること
- 四、歐米各國の標準的産業工藝品各種の寫眞を參考として陳列すること
- 五、消費規正其他の方途により定められたるマークの解説表
- 六、資材統制による製造販賣禁止の工藝品目表
- 七、本館指導品の陳列
- 八、本館が指導した製品で輸出又は市販品として成績良好なりしものを陳列參考とする
- 九、意匠改善の參考として新舊品比較表を展示すること
- 十、海外參考品

七、觀覽者の招待並に宣傳

展覽會開催第一日を招待日と定め左記宛に下記招待狀を發送せり。

- 貴族院議員
- 衆議院議員
- 東京府會議員
- 東京市會議員
- 東京商會議所議員
- 外國大使館公使館
- 工藝關係同業組合、工業組合
- 工藝關係學校及研究團體
- 關係官廳新聞雜誌社
- 其他本會關係者

拜啓益々御清榮之段奉賀候

陳者今や邦家未曾有の難局に直面し國防國家建設の聖業達成に邁進の時、時局認識の下に銃後産業組織並に生活體制も既往に於ける觀念を是正し實質剛健以て一意報國の赤誠を捧ぐべきは論を俟たざる所に御座候

茲に生活必需工藝品が國民生活に及ぼす影響の至大なるに鑑み斯業の革新的氣運を振興せしむ可く企畫院、情報局、商工省の熱誠なる御後援の下に本館主催を以て來る二月二十日より同月二十七日迄日本橋區室町三越本店に於て「新體制下に於ける」産業工藝品展示會を開催し所謂生産者たる中小工業者の心構を示すと共に需要者たる國民大衆の新生活標準の動向を指示せん

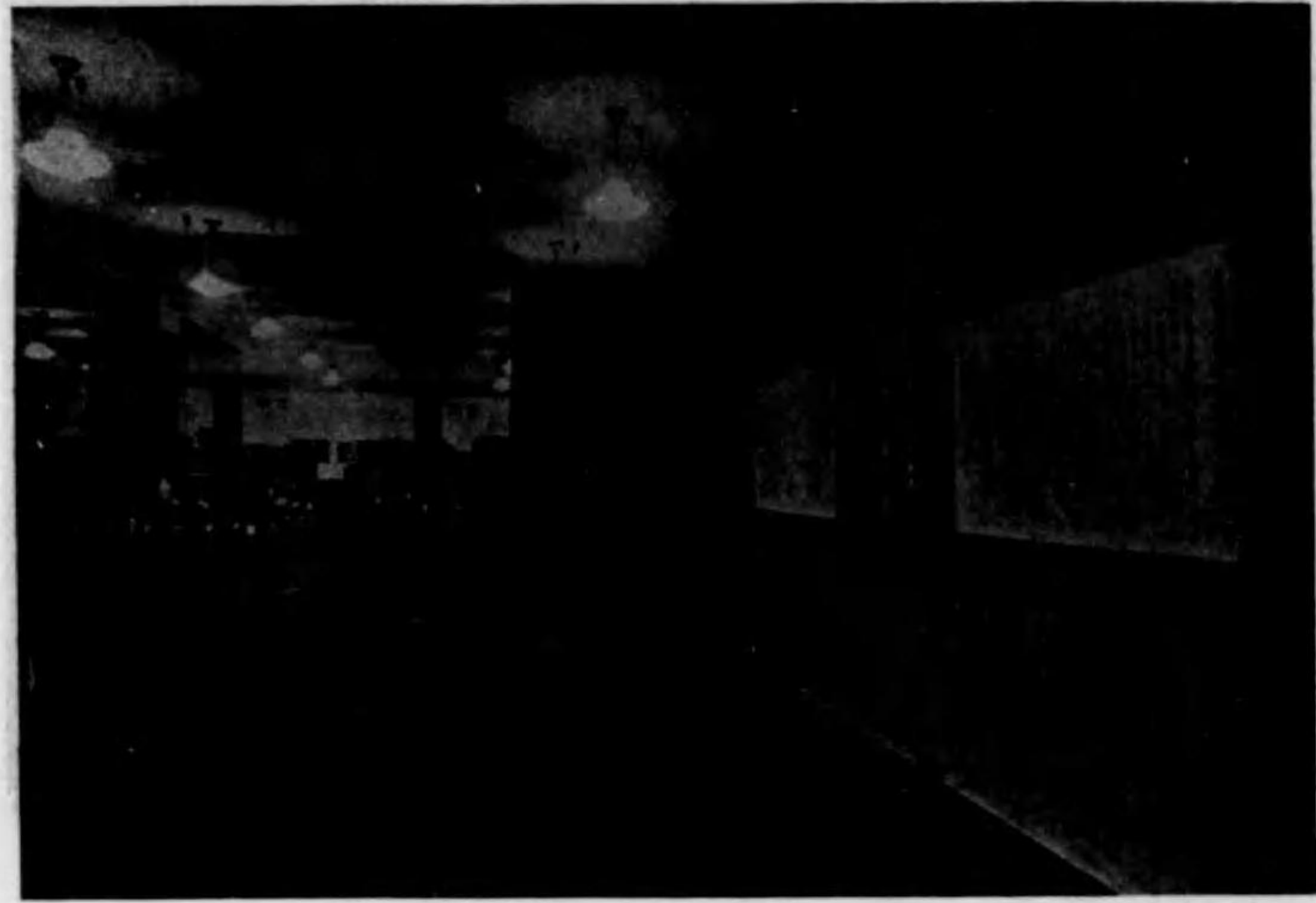
との計畫を以て生活必需の産業工藝品を一般の縦覽に供す可く候間會期中隨時御來觀の榮を賜度此段御案内申上候 敬具

追而二月二十日を招待日と相定め特に御觀覽の便に供し申候御觀覽時間は毎日（但し二十四日休會）午前九時より午後六時迄に御座候

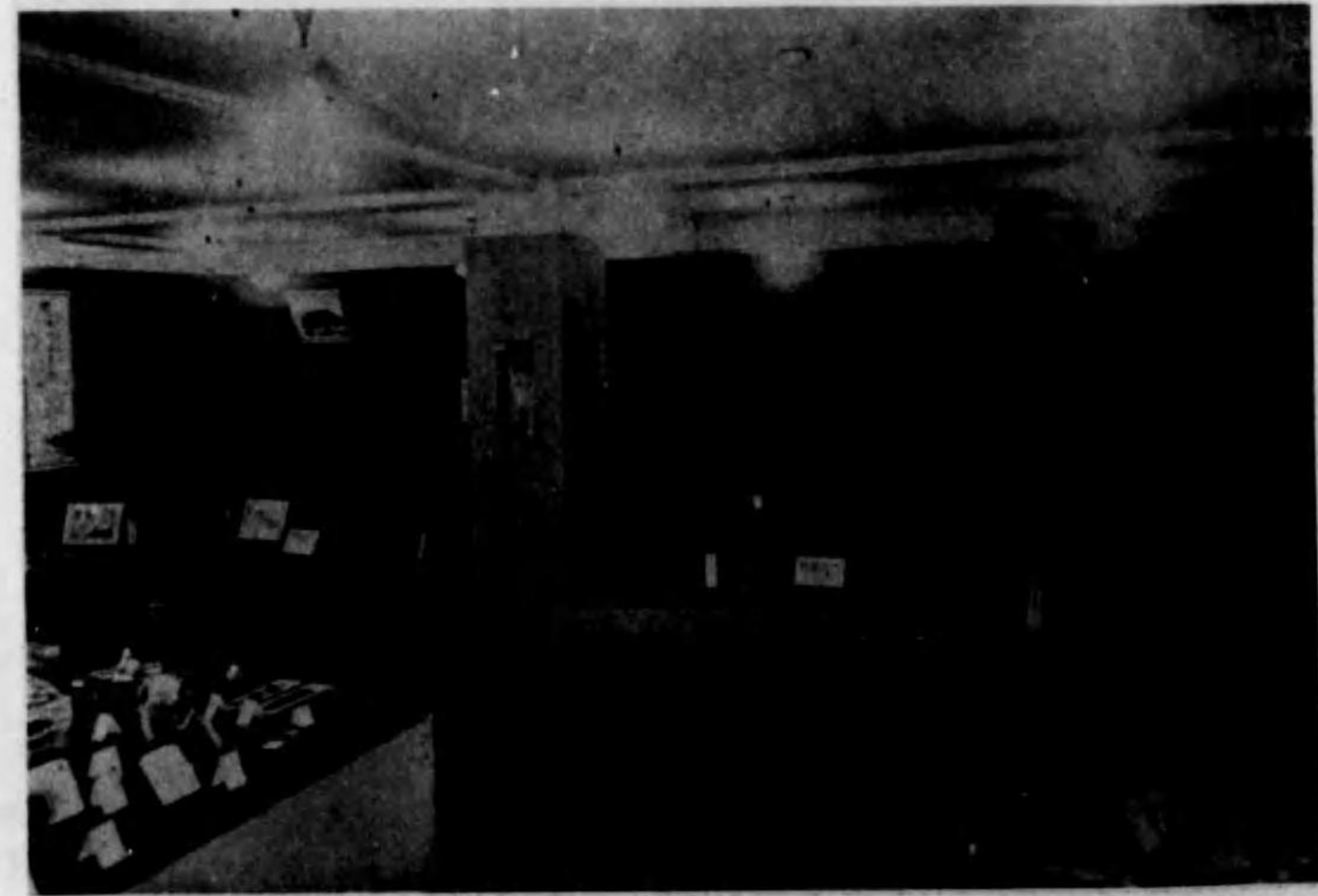
昭和十六年二月十五日

「新體制下に於ける」  
産業工藝品展示會々長  
東京府立工業獎勵局長 松田竹太郎

又一般大衆の觀覽を奨める爲ポスターを製作し、本會出品關係業者の店舗、工場或は組合事務所へ掲載せしむるに共に左記東京鐵道局管内主要驛構内に表示せり。



会場正面入口



家具陳列場

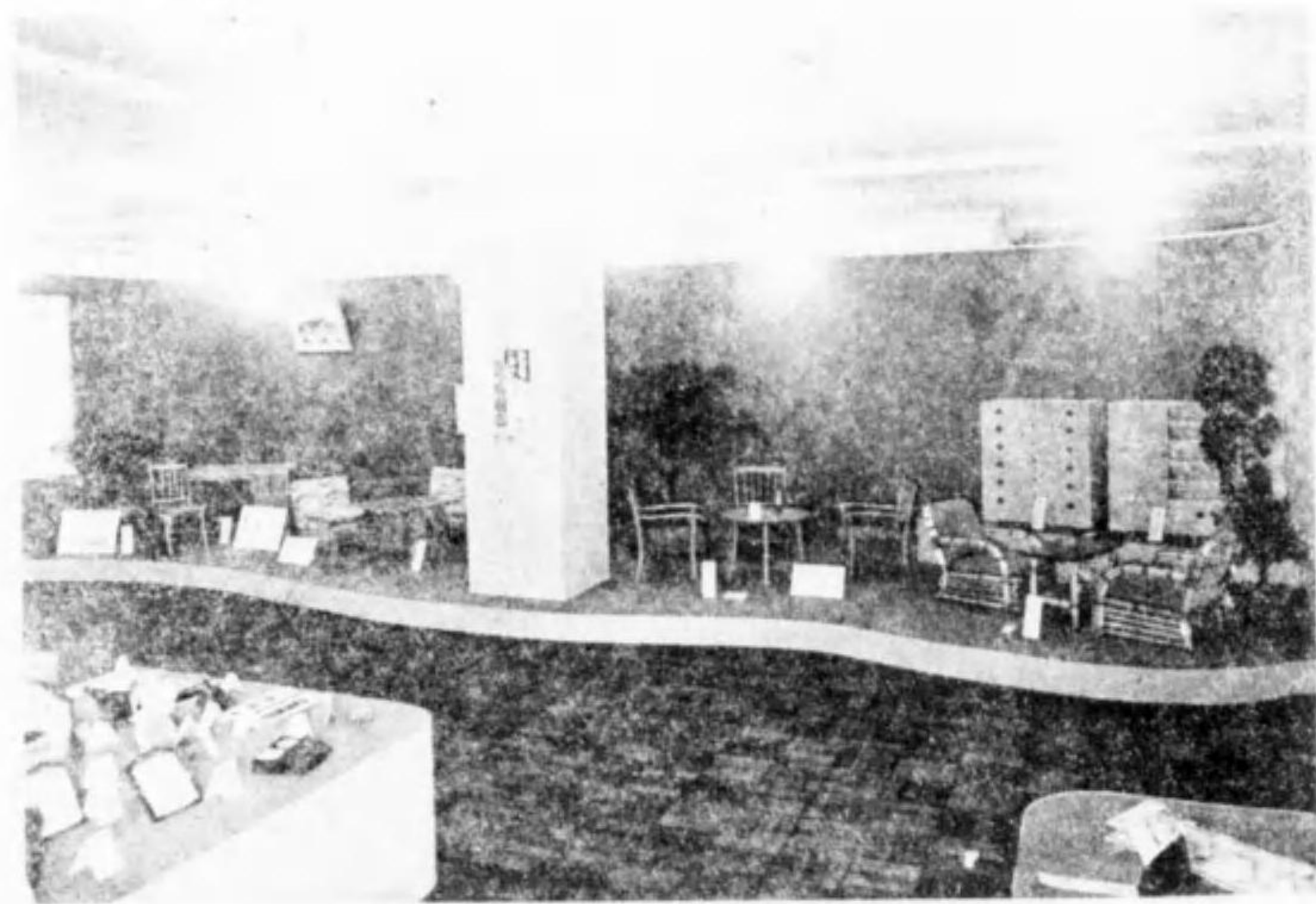
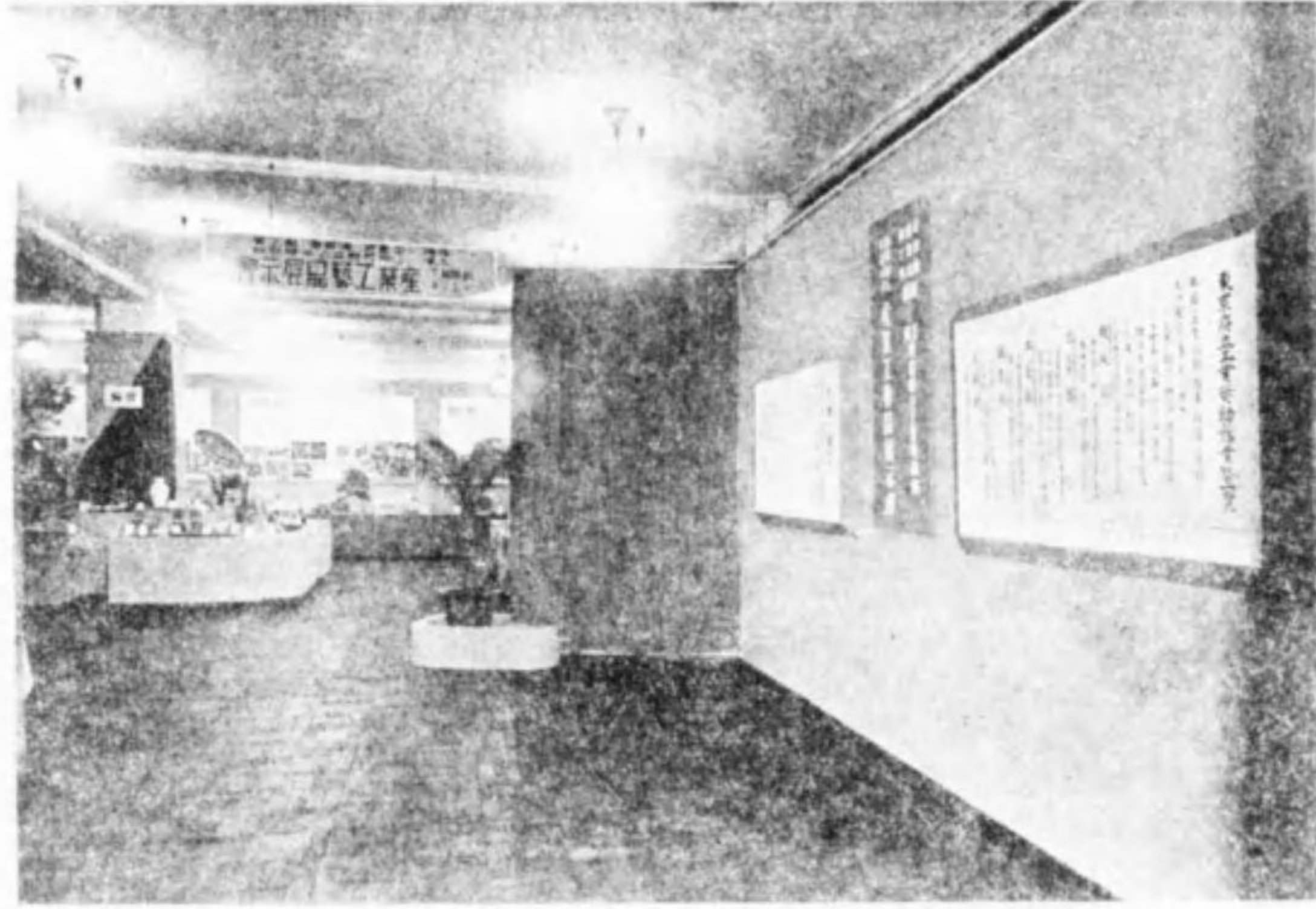
新体制下  
に於ける

東京府立工業奨励館  
企畫院  
情報局  
商工省

宣傳ポスター

- 特等 東京、上野、新宿  
 一等 有楽町、新橋、濱松町、田町、大井町、大森、蒲田、川崎、鶴見、東神奈川、横濱、櫻木町、大崎、五反田、目黒、恵比壽、澁谷、原宿、新大久保、高田馬場、目白、池袋、大塚、巢鴨、駒込、神田、秋葉原、御徒町、鶯谷、日暮里、田端、王子、赤羽、高世橋、御茶ノ水、水道橋、飯田橋、市ヶ谷、四谷、信濃町、千駄谷、代々木、大久保、東中野、中野、高円寺、阿佐ヶ谷、浅草橋、兩國  
 二等 板橋、十條、下十條  
 三等 三鷹、武蔵境、武蔵小金井、國分寺、国立、上中里、原町田  
 四等 菊名、小机、中山、長津田等  
 新聞廣告に就ては三越本店の好意により都下有力新聞に一回掲載し廣く周知に努めたり。

露光量違いの為重複撮影



新体制下  
に於ける  
産業工芸品展覧会

主催 東京府立工業奨励館  
協賛 企画院 商工省  
後援 情報局 倉庫局  
（昭和二十一年）

27・20

特等賞  
一等賞  
二等賞  
三等賞  
四等賞

（以下は受賞作品のリストが記載されているが、文字が非常に小さく読み取れない）



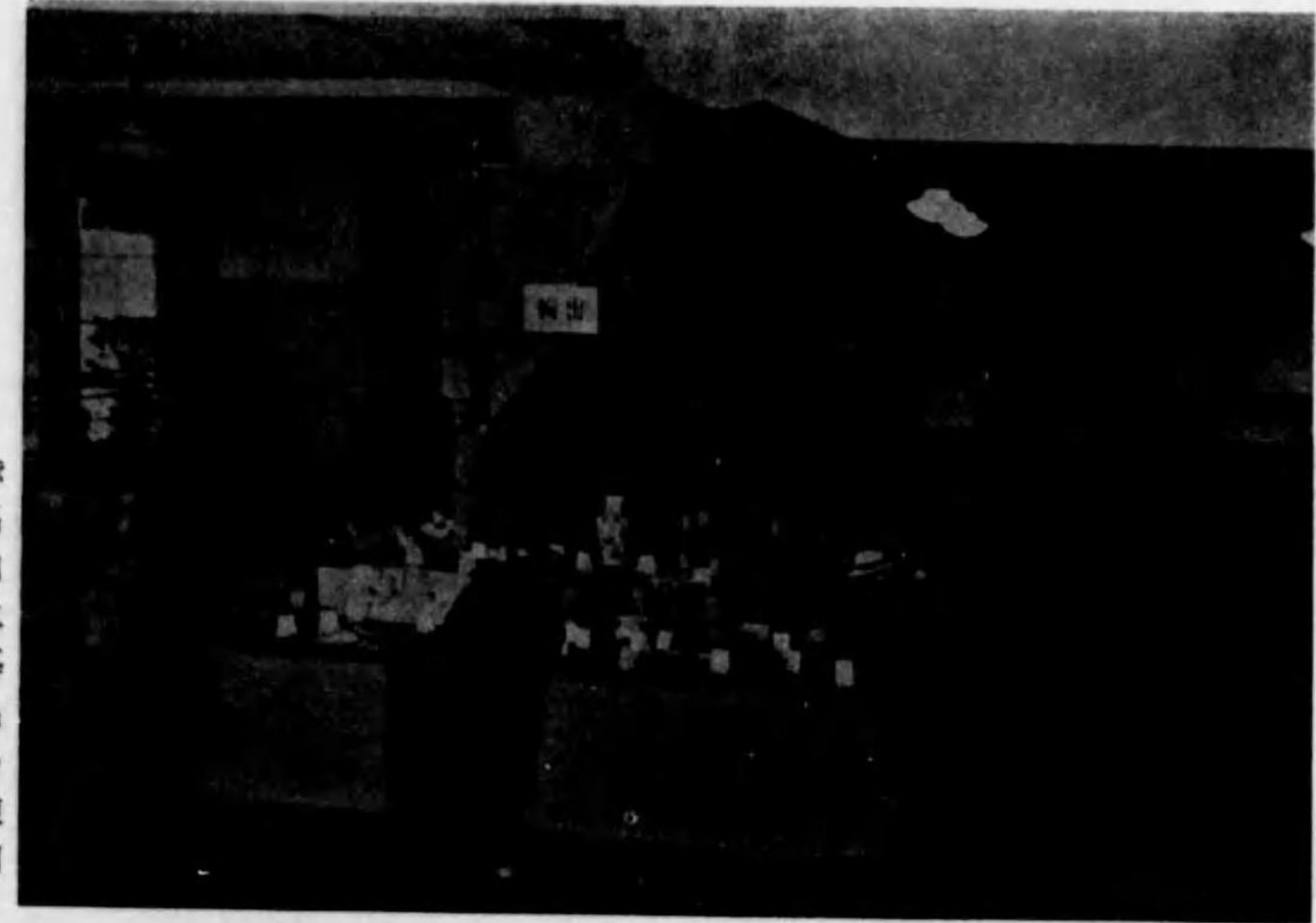
圖表及本館工芸部指導品の陳列



内地向工藝品の陳列



入賞品の陳列



輸外向工藝品の陳列





第一類 漆器及塗製品

番号	品名	住所	氏名
九	漆 銘々皿	下谷區四町一五	林氏
一〇	水 盆	下谷區四町九	矢島氏
一一	花 盆	淺草區淺草橋三丁目	紋田氏
一二	呂色丸 盆	同	重二
一三	内朱本敷地丸會席膳	同	遊部氏
一四	松透溜塗高懸付盛器	同	遊部氏
一五	角折上板目摺漆	同	遊部氏
一六	黒塗本敷地丸茶盆	同	遊部氏
一七	花生手桶形 鉢	同	遊部氏
一八	菓子鉢	同	遊部氏
一九	菓子鉢	同	遊部氏
二〇	菓子鉢	同	遊部氏
二一	菓子鉢	同	遊部氏

第一類 六類 木竹加工品

番号	品名	住所	氏名
二二	六角形 投入花籠	下谷區竹町四六	橋本氏
二三	竹編 ハンドバック	同	橋本氏
二四	電 燈	同	橋本氏
二五	電 燈	同	橋本氏
二六	電 燈	同	橋本氏
二七	電 燈	同	橋本氏
二八	電 燈	同	橋本氏
二九	電 燈	同	橋本氏
三〇	電 燈	同	橋本氏

第一類 七類 皮革及擬革加工品

番号	品名	住所	氏名
三一	日本竹皮南部表共芯	淺草區馬道二ノ四	東京草履工業組合
三二	竹皮 染色表共芯	同	東京草履工業組合
三三	日本竹皮表リフ芯	同	東京草履工業組合
三四	大 和 鶴	同	東京草履工業組合
三五	上リフカキエ表	同	東京草履工業組合
三六	紙製品九型提付	同	東京草履工業組合
三七	紙製品六型提付	同	東京草履工業組合
三八	紙製品五型提付	同	東京草履工業組合
三九	紙製品四型提付	同	東京草履工業組合
四〇	紙製品三型提付	同	東京草履工業組合

第一類 八類 新興資材加工品

番号	品名	住所	氏名
四一	合成樹脂銀メッキ加工カフスボタン	淺草區向原町一丁目	眞々田氏
四二	合成樹脂銀メッキ加工カフスボタン	同	眞々田氏
四三	合成樹脂銀メッキ加工カフスボタン	同	眞々田氏
四四	合成樹脂銀メッキ加工カフスボタン	同	眞々田氏
四五	合成樹脂銀メッキ加工カフスボタン	同	眞々田氏

第一類 九類 他類別に属せざる工製品

番号	品名	住所	氏名
四六	實用新案特許三ツ折厨斗	同	三光堂氏
四七	實用新案特許三ツ折厨斗	同	三光堂氏
四八	實用新案特許三ツ折厨斗	同	三光堂氏
四九	實用新案特許三ツ折厨斗	同	三光堂氏
五〇	實用新案特許三ツ折厨斗	同	三光堂氏

第二部 一類 染織布帛加工品

番号	品名	住所	氏名
五一	女子用袖下駄	同	同
五二	布地リフ表	同	同
五三	布地リフ表	同	同
五四	布地リフ表	同	同
五五	布地リフ表	同	同

第二部 二類 輸出向新研究工製品

番号	品名	住所	氏名
五六	女子用袖手巾	同	同
五七	女子用袖手巾	同	同
五八	女子用袖手巾	同	同
五九	女子用袖手巾	同	同
六〇	女子用袖手巾	同	同

第二部 三類 輸出向新研究工製品

番号	品名	住所	氏名
六一	女子用袖手巾	同	同
六二	女子用袖手巾	同	同
六三	女子用袖手巾	同	同
六四	女子用袖手巾	同	同
六五	女子用袖手巾	同	同

第二部 四類 輸出向新研究工製品

番号	品名	住所	氏名
六六	女子用袖手巾	同	同
六七	女子用袖手巾	同	同
六八	女子用袖手巾	同	同
六九	女子用袖手巾	同	同
七〇	女子用袖手巾	同	同

第二部 五類 輸出向新研究工製品

番号	品名	住所	氏名
七一	女子用袖手巾	同	同
七二	女子用袖手巾	同	同
七三	女子用袖手巾	同	同
七四	女子用袖手巾	同	同
七五	女子用袖手巾	同	同

第二部 六類 輸出向新研究工製品

番号	品名	住所	氏名
七六	女子用袖手巾	同	同
七七	女子用袖手巾	同	同
七八	女子用袖手巾	同	同
七九	女子用袖手巾	同	同
八〇	女子用袖手巾	同	同

番號	作	品	住	所	氏	名
三二	三二吋接染ボリン		同	八王子市八日町二七	同	八王子雜貨織物輸出振興會
三三	三三吋接染ボリン		同	同	同	同
三四	紋本絹マフラー(二本)		同	同	同	同
三五	絹スフ交織マフラー(四本)		同	八王子市臺町一七七	同	谷津一正
三六	洋傘		同	八王子市明神町	同	東京府立染織試験場
三七	双人紋婦人服地		同	同	同	同
三八	本絹縫ジョーゼット		同	同	同	同
三九	交織紋婦人服地		同	同	同	同
四〇	本絹縫取付傘地		同	同	同	同
四一	絹縁ハンカチーフ		同	同	同	同
四二	格子ハンカチーフ		同	同	同	同
四三	アンゴラフアールエルト		同	本所區平川橋五丁目	同	東京帽子株式會社
四四	中折帽子		同	四香地ノ三	同	同
四五	婦人朝子		同	品川區東大崎一ノ七	同	東京千代田製帽所

第二部 二類 硝子加工品及陶磁器

番號	作	品	住	所	氏	名
三〇	硝子コップ	青花文	同	日本橋區馬喰町四ノ丸	同	合名會社 佐々木硝子店
三一	同	金縁果盤文	同	同	同	同
三二	硝子	花瓶	同	同	同	同
三三	花瓶		同	同	同	同
三四	花瓶		同	同	同	同
三五	花瓶		同	同	同	同
三六	花瓶		同	同	同	同
三七	花瓶		同	同	同	同
三八	花瓶		同	同	同	同
三九	花瓶		同	同	同	同
四〇	花瓶		同	同	同	同
四一	花瓶		同	同	同	同
四二	花瓶		同	同	同	同
四三	花瓶		同	同	同	同
四四	花瓶		同	同	同	同
四五	花瓶		同	同	同	同
四六	花瓶		同	同	同	同
四七	花瓶		同	同	同	同
四八	花瓶		同	同	同	同
四九	花瓶		同	同	同	同
五〇	花瓶		同	同	同	同

第二部 三類 セルロイド及合成樹脂加工品

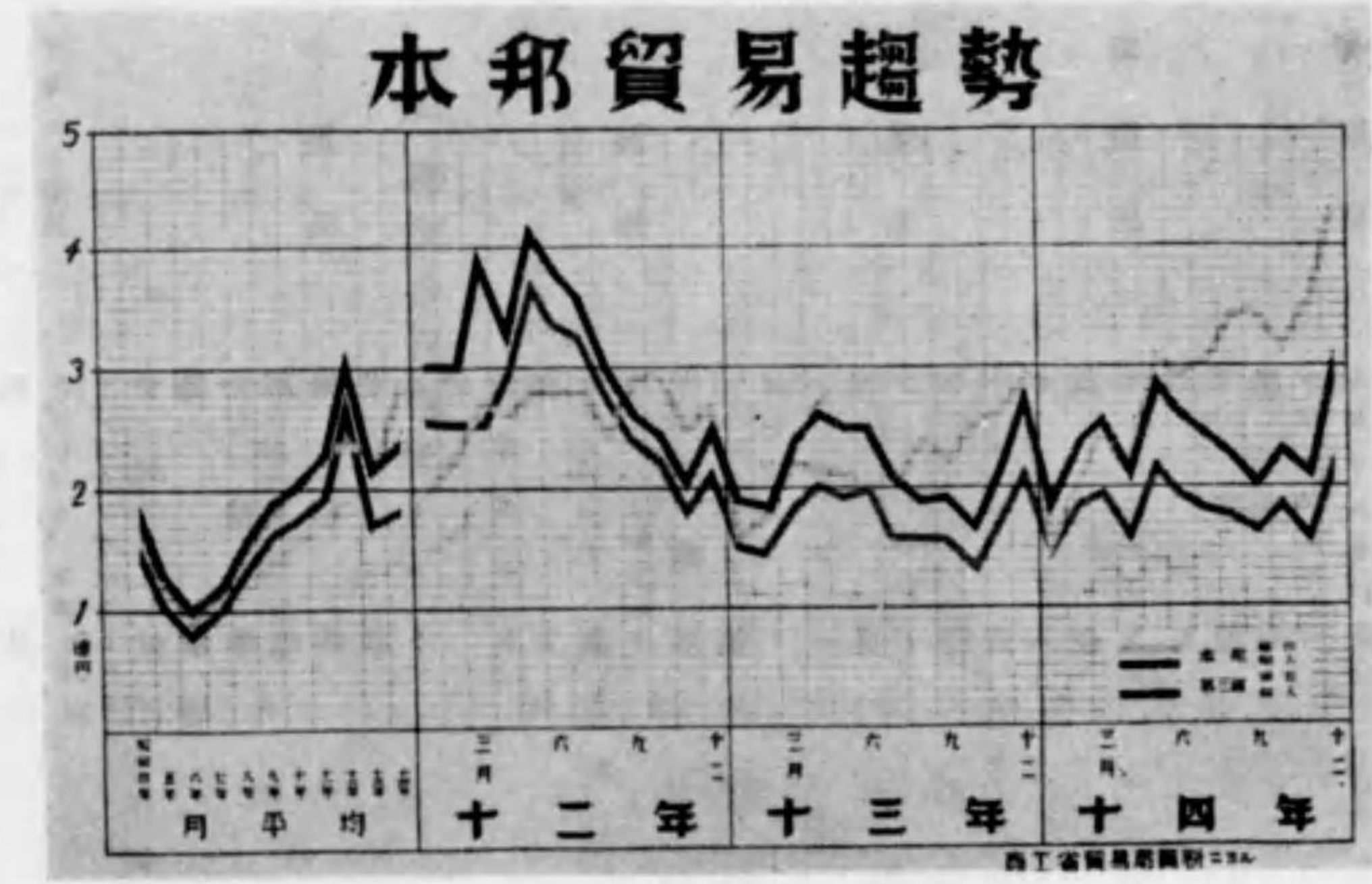
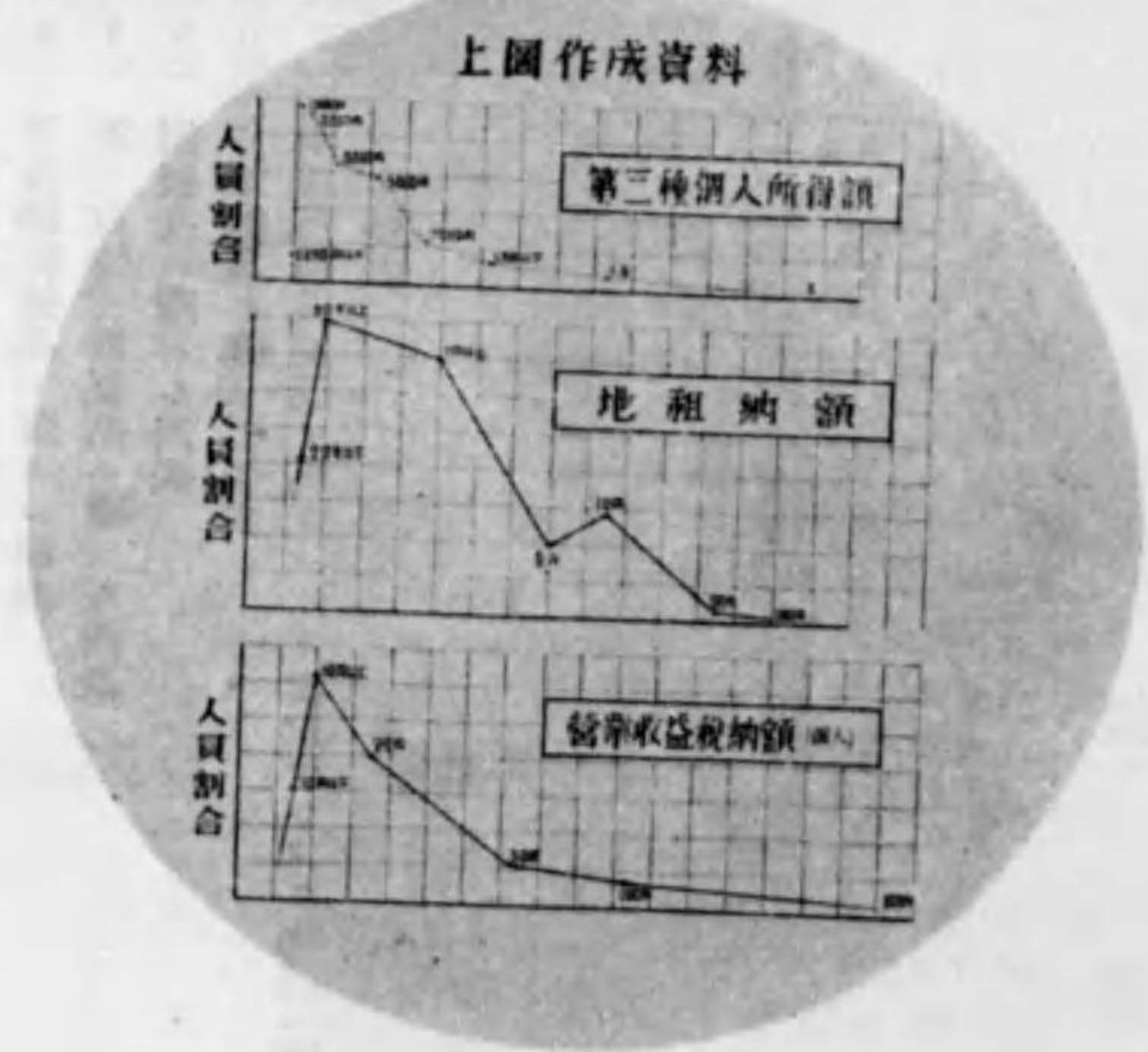
番號	作	品	住	所	氏	名
六一	ペンギン印ステンレス製天婦羅鍋		同	日本橋區江戶橋一丁目二	同	森岡ステンレス工業株式會社
六二	同		同	同	同	同
六三	同		同	同	同	同
六四	同		同	同	同	同
六五	同		同	同	同	同
六六	同		同	同	同	同
六七	同		同	同	同	同
六八	同		同	同	同	同
六九	同		同	同	同	同
七〇	同		同	同	同	同
七一	同		同	同	同	同
七二	同		同	同	同	同
七三	同		同	同	同	同
七四	同		同	同	同	同
七五	同		同	同	同	同
七六	同		同	同	同	同
七七	同		同	同	同	同
七八	同		同	同	同	同
七九	同		同	同	同	同
八〇	同		同	同	同	同
八一	同		同	同	同	同
八二	同		同	同	同	同
八三	同		同	同	同	同
八四	同		同	同	同	同
八五	同		同	同	同	同
八六	同		同	同	同	同
八七	同		同	同	同	同
八八	同		同	同	同	同
八九	同		同	同	同	同
九〇	同		同	同	同	同
九一	同		同	同	同	同
九二	同		同	同	同	同
九三	同		同	同	同	同
九四	同		同	同	同	同
九五	同		同	同	同	同
九六	同		同	同	同	同
九七	同		同	同	同	同
九八	同		同	同	同	同
九九	同		同	同	同	同
一〇〇	同		同	同	同	同

番號	作	品	住	所	氏	名
一〇一	オリンピックリール		同	淀橋區下落合二ノ九	同	植野製作所
一〇二	ハイスピード型		同	同	同	同
一〇三	新ホックス		同	同	同	同
一〇四	フライリール		同	同	同	同
一〇五	真面三寸旭光		同	同	同	同
一〇六	同		同	同	同	同
一〇七	同		同	同	同	同
一〇八	同		同	同	同	同
一〇九	同		同	同	同	同
一一〇	同		同	同	同	同
一一一	同		同	同	同	同
一一二	同		同	同	同	同
一一三	同		同	同	同	同
一一四	同		同	同	同	同
一一五	同		同	同	同	同
一一六	同		同	同	同	同
一一七	同		同	同	同	同
一一八	同		同	同	同	同
一一九	同		同	同	同	同
一二〇	同		同	同	同	同
一二一	同		同	同	同	同
一二二	同		同	同	同	同
一二三	同		同	同	同	同
一二四	同		同	同	同	同
一二五	同		同	同	同	同
一二六	同		同	同	同	同
一二七	同		同	同	同	同
一二八	同		同	同	同	同
一二九	同		同	同	同	同
一三〇	同		同	同	同	同

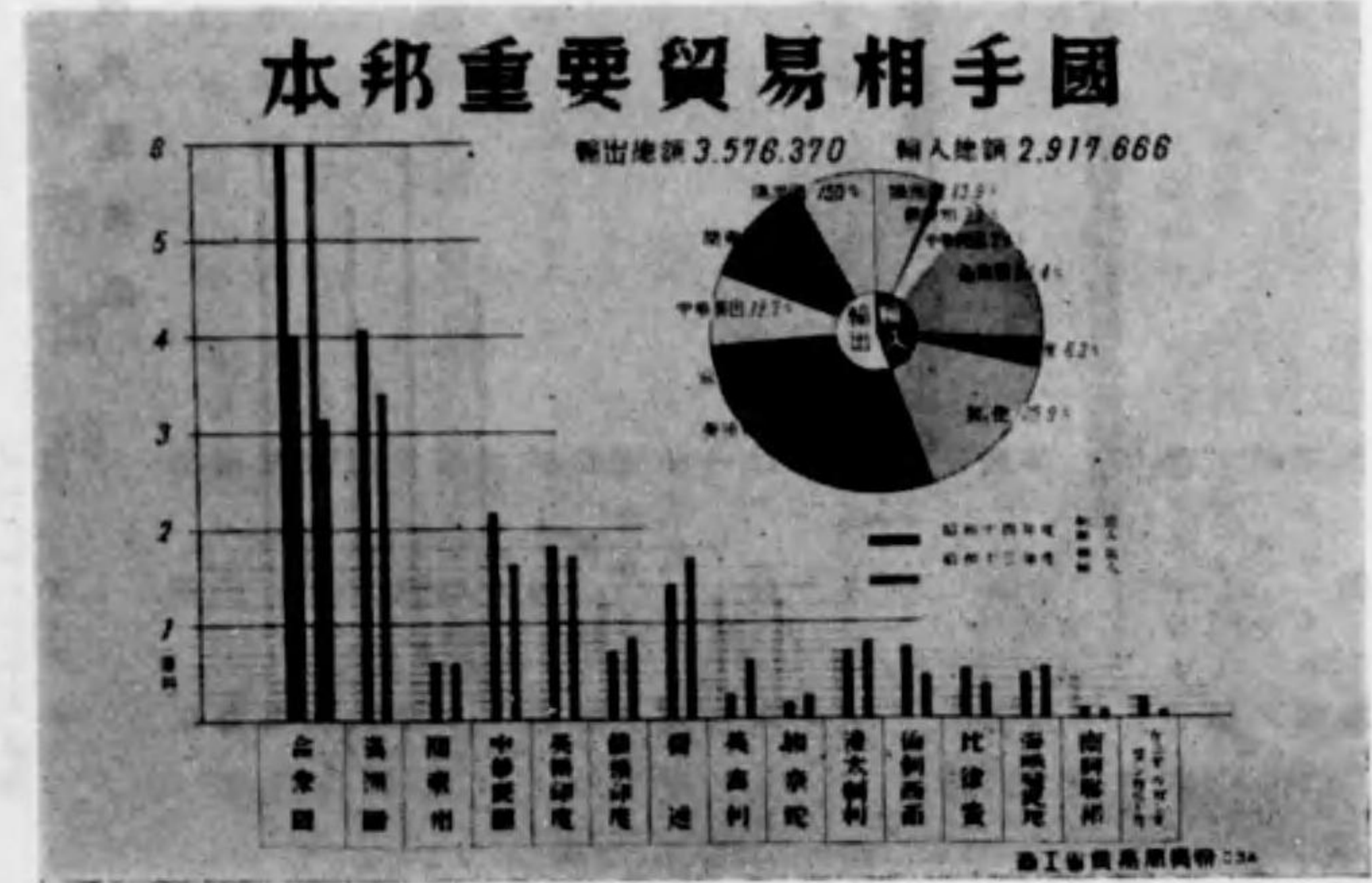




(三) 財力ヨリ觀テ我國民ノ生活階層割合ニ關スル統計圖表



(一) 本邦貿易趨勢ニ關スル統計圖表



(二) 本邦重要貿易相手國ニ關スル統計圖表

五、本館工藝部蒐集の資料に依りて調製したる參考統計並に圖表

商品ノ表示様式ノ解説

- ④ 価格停止品  
九一八テストツフサレク借ノ商品  
(價格等註制令第二條ノ適用ヲ受ケル物品)
- ⑤ 新製品  
九一八当時ニ在リタ物品トハ型態 内容  
効同等ニ於テ本質明ニ差異アルモノ、ミラ  
指ス  
(價格等註制令第二條ノ適用ヲ受ケル物品トシテ  
行規別第三條第一項第二号ニ掲ゲルモノ)
- ⑥ 協定價格品  
業者間ノ協定價格力認可サレタ物品  
(價格等註制令第三條第一項ノ規定ニコソルモノ又  
八同條第二項ノ規定ニコソルモノノアツタ物品)
- ⑦ 公定價格品  
公定價格ノ決ツタ物品  
(第一條價格等註制令ニコソテ指定サレタ物品ノ外  
二同令第六條第二項ニ掲ゲタ他ノ法令ニコソテ  
指定サレタモノヲモ含ム)
- ⑧ 許可價格品  
例外許可サレタ物品 輸出スル物品 輸入  
シタ物品 止ムヲ得ナイ場合等  
(價格等註制令第二條第一項但書又八第七條第一  
項但書ノ許可ヲ受ケタ物品)

(八) 商品ノ表示様式ノ解説

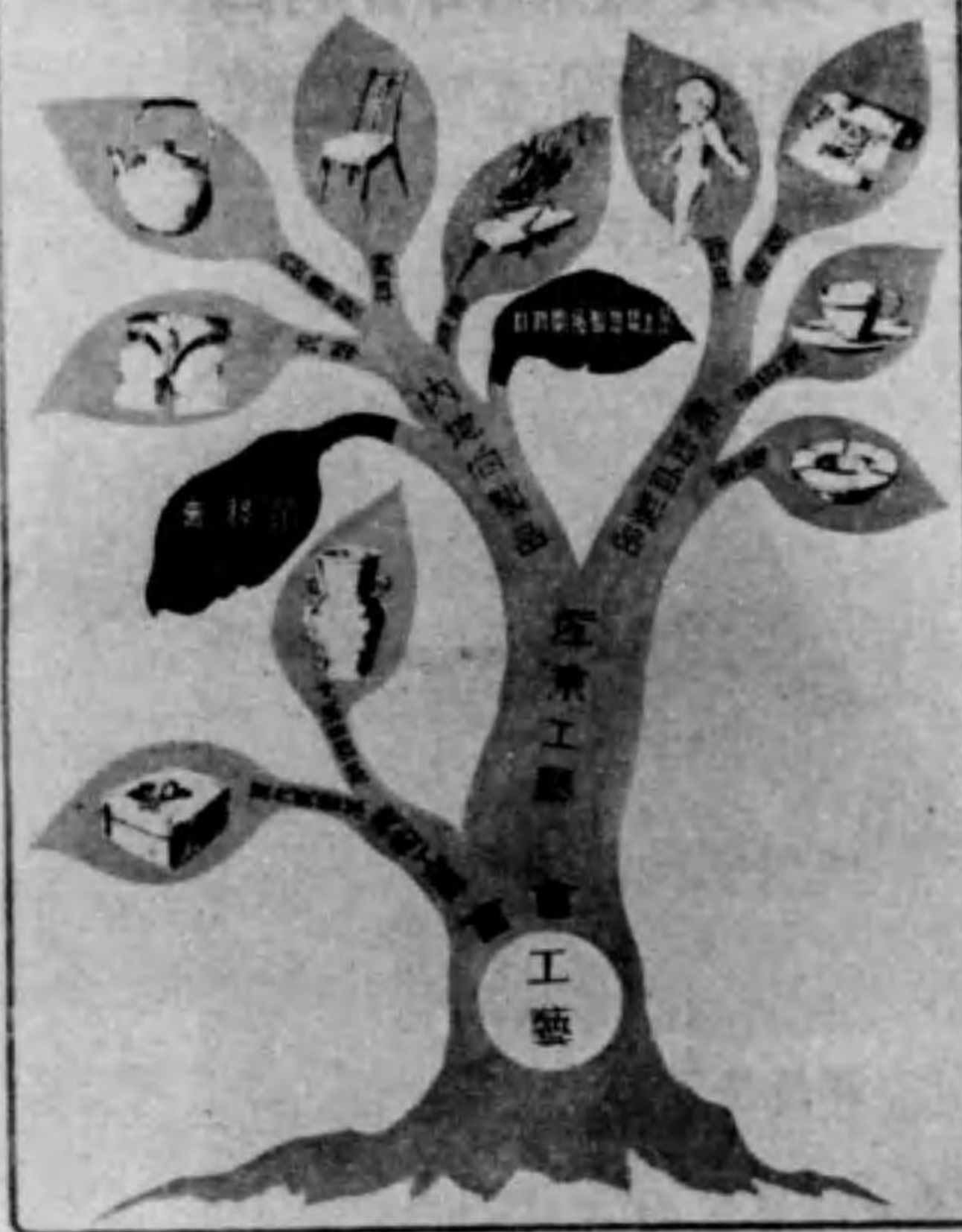
商品名

- 1 石炭酸系合成樹脂  
A-2776, 2777, 2778, 2779, 2780, 2781, 2782, 2783, 2784, 2785, 2786, 2787, 2788, 2789, 2790, 2791, 2792, 2793, 2794, 2795, 2796, 2797, 2798, 2799, 2800, 2801, 2802, 2803, 2804, 2805, 2806, 2807, 2808, 2809, 2810, 2811, 2812, 2813, 2814, 2815, 2816, 2817, 2818, 2819, 2820, 2821, 2822, 2823, 2824, 2825, 2826, 2827, 2828, 2829, 2830, 2831, 2832, 2833, 2834, 2835, 2836, 2837, 2838, 2839, 2840, 2841, 2842, 2843, 2844, 2845, 2846, 2847, 2848, 2849, 2850, 2851, 2852, 2853, 2854, 2855, 2856, 2857, 2858, 2859, 2860, 2861, 2862, 2863, 2864, 2865, 2866, 2867, 2868, 2869, 2870, 2871, 2872, 2873, 2874, 2875, 2876, 2877, 2878, 2879, 2880, 2881, 2882, 2883, 2884, 2885, 2886, 2887, 2888, 2889, 2890, 2891, 2892, 2893, 2894, 2895, 2896, 2897, 2898, 2899, 2900, 2901, 2902, 2903, 2904, 2905, 2906, 2907, 2908, 2909, 2910, 2911, 2912, 2913, 2914, 2915, 2916, 2917, 2918, 2919, 2920, 2921, 2922, 2923, 2924, 2925, 2926, 2927, 2928, 2929, 2930, 2931, 2932, 2933, 2934, 2935, 2936, 2937, 2938, 2939, 2940, 2941, 2942, 2943, 2944, 2945, 2946, 2947, 2948, 2949, 2950, 2951, 2952, 2953, 2954, 2955, 2956, 2957, 2958, 2959, 2960, 2961, 2962, 2963, 2964, 2965, 2966, 2967, 2968, 2969, 2970, 2971, 2972, 2973, 2974, 2975, 2976, 2977, 2978, 2979, 2980, 2981, 2982, 2983, 2984, 2985, 2986, 2987, 2988, 2989, 2990, 2991, 2992, 2993, 2994, 2995, 2996, 2997, 2998, 2999, 3000
- 2 尿素系合成樹脂
- 3 フェニール系合成樹脂
- 4 アクリル酸系合成樹脂
- 5 スチロール系合成樹脂
- 6 クリアール系合成樹脂
- 7 カゼイン角質物
- 8 酪酸纖維素可塑物

製造ノ型式	種類	性質
縮合型	石炭酸系合成樹脂 クリフタル系合成樹脂 フェニール系合成樹脂 アクリル酸系合成樹脂 スチロール系合成樹脂 共他	熱可塑性
縮合型	石炭酸系合成樹脂 クリフタル系合成樹脂 尿素系合成樹脂 共他	熱硬化性

- (九) 合成樹脂ニ關スル圖表
- (1) 原料上ノ分類
- (2) 製造方法及ビ性質上ノ分類

産業工藝ノハ工藝ノ根幹ナシテアル



(四) 産業工藝ノ説明圖

- (四) 産業工藝ノ説明圖
- (五) 工藝動向ノ解説圖表
- (イ) 過去、(ロ) 現在、(ハ) 將來ノ三部ヨリ成ル寫眞入大圖表
- (六) 盟邦ドイツニ於ケル産業工藝ノ一傾向
- (七) 意匠改善ノ解説圖表
- (一〇) 資材使用制限規則ノ規定ニヨリテ指定サレタル物品ノ  
内工藝ニ關スルモノヲ指摘セル參考圖表
- (1) ニツケル製品ニ關スル圖表
- (2) ゴム製品ニ關スル圖表
- (3) 鉄鐵物製品ニ關スル圖表
- (4) 鉛、亜鉛、錫製品ニ關スル圖表
- (5) 鋼製品ニ關スル圖表
- (6) 皮革製品ニ關スル圖表
- (7) 銅使用制限規則ノ規定ニ依リ指定サレタル物品ニ關  
スル圖表

九、經過（日記）

昭和十五年

十月二十一日 展示會開催計畫に關し本館工藝部全員協議基本要項決定準備着手

十月二十二日 趣旨、規則原案作成、委員人選協議

十月二十四日 委員依囑の爲三越本店へ係員出張

十月二十五日 後援依頼方の件企畫院へ申請

十月二十六日 後援依頼方の件情報局へ申請

十月二十九日 會場使用方に關し三越本店企畫部と連絡打合せ

十月三十一日 委員依囑の爲東京高等工藝學校へ係員出張

十一月五日 情報局より後援の旨正式通牒受領

十一月十二日 商工省より後援の旨正式通牒受領

昭和十六年

一月四日 協議打合せ會開催通知關係官廳組合代表等へ發送

一月六日 本館出品物、參考圖表等の資料蒐集並に之が表現形式に關し工藝部内會議開催準備着手

一月十日 丸の内中央亭に於て協議會開催關係官廳の説示、本館の説明趣旨規則等の件に就き協議

十一月十一日 趣旨規則申込書印刷手配

一月十六日 展示會用諸材料準備

一月十八日 出品勸誘先調査

一月十九日 出品勸誘狀發送準備着手

一月二十一日 趣旨規則等印刷物出來

一月二十二日 出品勸誘狀各方面へ郵送完了

參考品借用の爲大日本航空會社へ係員出張

審査委員依囑並に後援申請の爲商工省化學局へ係員出張

一月二十三日 參考品借用の爲陸軍經理學校へ係員出張

事務繁忙の爲女事務員採用

一月二十八日 展示會宣傳ポスターを東京市内外各驛其他關係方面へ掲載

二月一日 府立東京商工獎勵館へ展示會出品審査會場借用方申請

二月三日 併設「講演と映畫の會」講師依囑の爲文部省へ係員出張

企畫院より後援の旨正式通牒受領

二月四日 同伴の爲係員情報局へ出張

映畫借用の爲獨逸大使館並に獨逸國有鐵道中央觀光局日本支局へ係員派遣

二月五日 審査委員依囑狀發送

二月六日 映畫借用の爲文部省社會局文化映畫課へ係員出張

二月八日 本館工藝部と三越企畫部員合同にて會場設備に關する具體的連絡打合せを爲す

二月十一日 紀元節

二月十二日 出品搬入受付第一日

二月十三日 出品搬入受付第二日、出品受付表調製

審査委員會配付資料準備

二月十四日 出品物受付臺帳整理、鑑査準備

二月十五日 招待狀發送準備、鑑査準備

二月十六日 招待狀發送、出品整理、照合

二月十七日 丸の内帝國鐵道協會に於て審査委員會を開催、午後より引續き府立東京商工獎勵館大講堂に於て鑑査審査を實施擬賞決定

二月十八日 檢札、照合、整理、陳列計畫協議

三越會場へ出品物搬入完了、選外品保管手配、大型圖

表統計取付完了

二月十九日 一般出品物の陳列、參考出品の陳列付札の照合、陳列整頓、出品目録印刷調整完了

二月二十日 開會、第一日、招待日とす

出品者宛入選授賞正式通知狀發送

開院宮妃殿下非公式御台臨

朝香宮若宮妃殿下非公式御台臨

外招待者として眞野文二氏始め名士多數來館ありたり

二月二十一日 商工省工藝指導所長岡井喜多郎氏外關係委員

東京高等工藝學校、東京美術學校、府立工藝學校學生生徒多數來觀

二月二十二日 報告書資料として記録寫眞撮影

都下工藝指導機關の職員、工藝團體代表者關係組合當業者の來觀多し

二月二十四日 百貨店休業日に就き本會も一日休會す

二月二十五日 午後一時より本會併設別項の通り「講演と映畫の會」を開催（於三越本店ホール）時局下産業工藝の動向に深刻なる關心を持つ指導者、製産者、配給關係者、消費大衆並に研究者、學生等の熱心なる聽衆八百餘名參集盛會裡に午後四時終了、隣接府縣の工藝指導館の來觀多し

二月二十七日 最終日にも拘らず觀覽者數千を算し會場事務室に於て本品の紹介斡旋或は質疑應答せるもの甚だ多し。特に本會は宣傳普及に努めたる會場の適切なりし爲多大の効果を納めしものと思料せらる

午後六時閉會、全出品物を搬出府立東京商工獎勵館大講堂へ輸送す。大形出品は三越より出品者へ返還。

二月二十八日 一般出品者宛搬出通知發送返還品整理照合、搬出準備

午後より搬出事務開始

三月一日 前日に引續き出品搬出續行

三月二十六日 賞狀並に賞金授與

三月三十一日 展示會殘務完了

附 錄

講演と映畫の會  
(産業工藝品展示會併設)

### 新體制下に於ける産業工藝品展示會併設

#### 講演と映畫の會報告書

首題の産業工藝品展示會に於ては工藝品を介して時局下産業工藝品の動向を示し生産者たる中小工業者と需要者大衆に産業工藝の認識を新たにすると共に本會に於ては斯界權威の指導理念を普及徹底せしめ尙且内外に躍進しつゝある産業工藝の記録映畫を映寫して營業者の再認識と新發足を促し新國民生活文化の發展を目して大要次の如く二月二十五日午後一時より日本橋三越本店大ホールに於て開催せり。來會者多數午後四時盛會裡に終了す。

#### 講演と映畫の會次第

一、挨拶 東京府立工業獎勵館長 松田竹太郎氏

#### 二、獨逸國民生活と産業工藝

講師 文部省演劇映畫音樂等改善委員  
厚生省勞務管理調査委員  
文學士 權田保之助氏

要旨 盟邦獨逸の近代國民生活と生活文化、産業工藝等に關して説くところ我々時局下國民生活に他山の石として與へられた生きた教訓である。

#### 三、國防國家と國民生活

講師 情報局第二部第二課長 大熊讓氏  
海軍大佐

要旨 國防國家建設と新體制下の國民生活刷新に就て戰線に外國駐在に或は時局下情報官として輝かしき經歷を持つ講師の講話は物と心、精神力、國民性の問題より説き産業工藝人の新發足に際して深き感銘を與ふものがあつた。

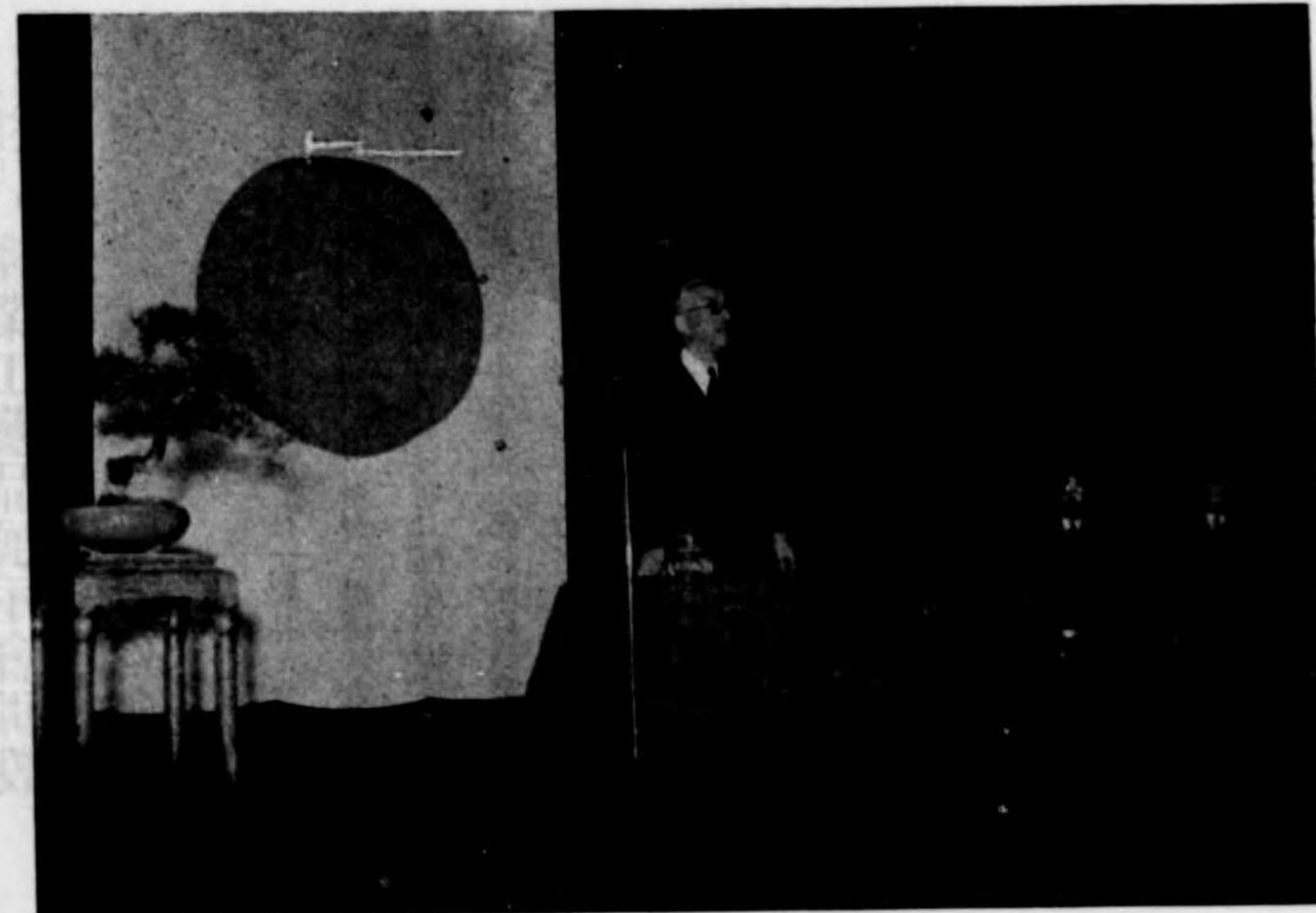
#### 四、映畫

エルツの手藝	一卷
少年機動隊	二卷
勤く手	二卷
海南の工藝	一卷





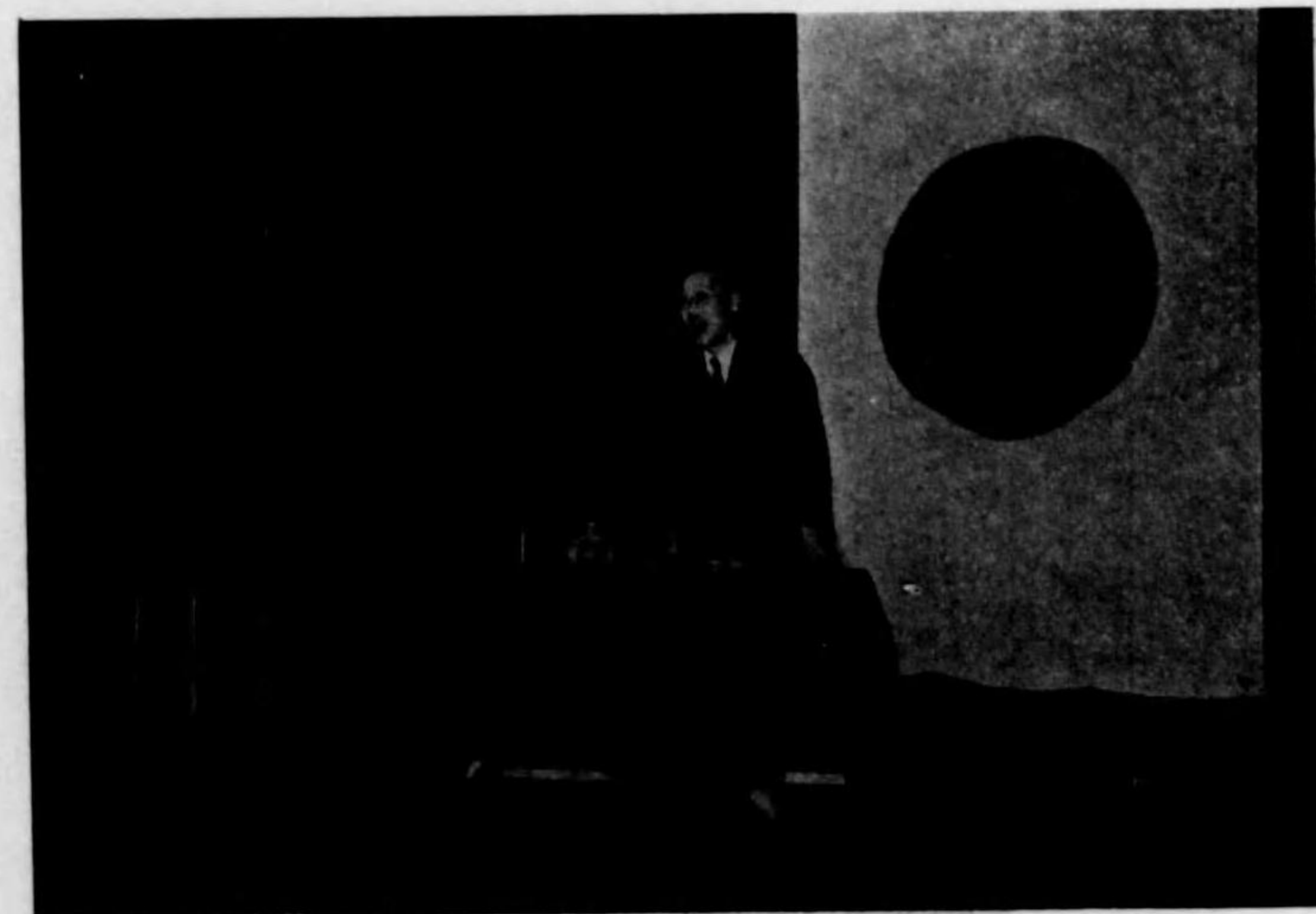
大熊護氏講演



館長挨拶



講演會場の情景



權田保之助氏講演

# 講演と映畫の會速記録

挨拶

東京府立工業獎勵館長 松田竹太郎

豫て商工省、企劃院及び内閣情報局の御後援に依りまして、當東京府立工業獎勵館の一事業と致しまして新體制下に於ける産業工藝品展示會これを當三越に於て只今開催中でございます。この機會に於きまして銃後國民の生活改善に關しまして講演會を只今から開催致します。それにつきまして多數御參會下さいたしまして司會者と致しまして洵に光榮に存する次第でありまして、厚く御禮を申し上げます。

今回開催致しました展示會の目的は、工藝品といふものを通して銃後國民の生活改善を促し、又戦時體制下に於きます生活必需品としての工藝品は、かありたいといふことを示し、それに依つて關係生産業者にも何か示唆を與へる。同時にまた大衆に對しては新工藝の動向を進んでお示しをする。そして健全にして明朗なる銃後國民の新生活に寄與し併せて關係工業の改善、新發足に資するといふことを念願致して計畫を致しました。何分初めての試みでありまして準備の不十分な點があります。看板は相當に大きく掲げましたが、この會を催しました趣旨は只今申上げましたやうなところにあるといふことを十分お汲み取り願ひたいと存する次第であります。かういふやうな試みは關係生産業者、又我々工業の指導に當つて居ります者と間に一致した考へを持ちましてやつて居らなければならぬものがあるかと痛感致して居るのであります。今後度々かやうな催しを致しまして、さうして目的の達成に努めたい、かう考へて居る次第でございます。先程申上げましたやうに銃後國民の生活改善を促し又戦時體制下に於て生活に缺くべからざるどころの工藝品はどうかあり

さう考へて参りますとわれ／＼の日常生活に必要な品物、例へば衣服或は机とか火鉢とか或は食器、煙草その他色々の携帶品の中で世間で所謂雜貨と稱へて居るもの、かういふ品物は大部分これを工藝的な品物と考へることが出来るのであります。従つて工藝の改善といふことは今日のやうな高度國防國家を建設する新體制下に於て益々これが必要であらねばならぬのであります。われわれはさういふことをはつきり認識致しまして今日まで自由主義の下に大衆の文化生活といふ大事なことと離れましてたゞ資本主義、金持の道樂の對象となつて居つたやうな所謂舊體制下に於ける工藝といふやうなものを捨てまして、本来の目的であるところの國民生活に最も必要な工藝品を作り出すといふことを第一に考へて行くべきものと思ひます。即ち我々の取扱ひまするものも積極的にこれを消費するところの大衆に呼びかけまして便利に或は實益、堅牢、慰安といふやうなことが併せ得らるべきものを目標として工藝品を作り出すといふやうにしなければならぬのであります。これを消費される方の側から見ても、戦時下の國民生活と致しまして質實剛健、簡素な生活を目指していかもその間に只今申上げましたやうに生活に潤ひをもたせる、慰安を得られるといふやうな品物を選んでお使ひになるといふことが必要であるかと考へます。又戦時體制下に於きましては國防資材が非常に拂底をするといふところから日常の必需品までも資材の使用が制限せられて居ります。又低物價政策の上から参りまして公定價格をつくるか、或は停止價格、その他費澤品の製造販賣を禁止するとか色々な制限が與へられて居りますが、このやうな制限は今日に於きましては最も必要な制限であり、われ／＼と致しましてはこの制限の下にこれを守つて行かなければならないことは勿論であります。この爲に工藝製品も相當色々の制限を甘んじて受けなければならぬやうになつて居るのであります。その爲に工藝に關係して居られる人々が非常な苦しみ今遭つて居られるのであります。從來のやり方では一寸どうしていゝのか分らないといふやうなやうな時でありまして、その爲に徒に萎縮したり、或は粗製濫造をやるといふやうなことで技術を低下させるといふやうなことをしては相済まんと思ひます。若しさういふやうなことになるかと、我々の日常生活に健全な明朗なる慰安を與へるところの産業工藝の重大使命を没却することに

いかといふやうな目的を以て、それを實際運動と致しましてかやうな展示會を催しましたことはわれ／＼の今回の試みが初めてでありまして今後はかやうな運動が諸方に於て行はれることと信じて居る次第でございます。

由來工藝品と申しますると兎角骨董品といふことを考へられるのであります。又藝術的の個性嚴重の所謂一品作品であるといふやうな美術工藝、かういふものをどなたも考へられるのであります。その結果と致しまして工藝といふものはわれ／＼の日常生活とは寧ろかけ離れた現代ばなれのした、かういふ時期に於て一向用のないといふやうなものややうに考へられるかも知れませんが、これは工藝といふものに對しての認識の不足に起因して居るとかう考へるのであります。工藝といふものは決して骨董品ではありません。又一品作品の所謂美術工藝品でもありません。さやうな工藝品と申しますものは寧ろ第二義的のものでありまして、需要は極めて少いものであります。又工藝を工業とは別個のものに考へて居られる向きもあるやうに存じますが、工藝は決して工業と別個のものではないのであります。寧ろ工業は工業を別の見方から考へたものといつても差支へないのであります。工藝品といつても一定の種類品物を限定して居るのではないのであります。例へば一つのかういふコップの如きものでも或場合にはこれが立派な工藝品であり、又或る場合には寧ろ工業製品であるに過ぎないと言へるのであります。その考へから工藝とは何であるかと申しますると工藝とは日常生活の需要に應ずる實用の中に藝術的作用を含ませるところの工業活動である。かうむづかしくいへば定義されると思ひます。要するに物の實用と美とをうまく拘き合せるといふことが工藝の目的であるのであります。實用を増さんが爲にはその美を發揮せしめる、美を發揮せしめることが實用の要素になるといふことになりまして、初めて工藝がわれ／＼の生活と極めて近い關係にある、かう申すことが出来るかと考へるのであります。

なるのであります。工藝に關係して居られる業者諸君の今後の進み方は、先程から申上げましたやうな國民生活に最も適したものに進むといふことが強く申上げられると考へます。

然らばそれをどういふ風なことをめがけて行けばよいか、ここに生活の標準化といふやうなことも考へられるのであります。これはむづかしい問題であります。今回の展示會に於きましてはその生活程度を大幅に見ましてさうしてその範圍に於て出来るだけ所期の目的に達して居るといふやうなものを選びまして皆様に目にかけたやうな次第であります。その上に創作の價値のあるもの、又規格に合格して居るもの、さういふやうなものを目標として選んだのであります。勿論一番最初に申上げました如く初めての試みでありまして、あそこに並べたものはこれが最も立派なものであると申上げませんが、兎に角その方面に向つて頭をつかひまして選び出した品物であります。そのことを販味下さいまして展覽會を御覽下さるやうに願ひます。尙又われ／＼の展覽會の中に第二部といふものを設けて、それは輸出向きの品物をこの際選んだのであります。從來輸出向きの品物といふと外國思想の模倣といふやうなものが多かつたのであります。そのやうなところから我が國の持つて居る獨特の精神といふものが没却されて居つた向きのないとは言へないのであります。さういふ舊い考へを捨てましてわれ／＼日本人と致しましてわれ／＼の持つて居るところの精神を海外に發揮出来る、しかも海外の人々にうけるといふやうなものはどういふ基準に依つて作り出さるべきかといふやうなことを考へまして輸出向きの品物を選んで次第であります。展覽會の大體の趣旨は只今申上げましたがこれに關聯致しましてわれ／＼の進むべき道等につきまして只今からその道の權威ある方々の御講演を伺ふことに致しました。この機會に於きまして御挨拶を述べまして展覽會の趣旨と我々のもつて居りますところの抱負とを一言述べさせて戴きました。では只今から御講演を願ふことに致します。御清聴を願ひ致します。

## ドイツ國民生活と産業工藝

文部省演劇映畫音楽等改革委員  
厚生省勞務管理調査委員

文學士 權田保之助

いま現に、地球上の全人類の前に、非常な驚嘆と畏敬とを見せざる國民が二つござります。その一つは、これは申上げるまでもなく、われ／＼日本國民であります。さうしてそのもう一つは、これはまた申すまでもなく、ドイツ國民であります。わが日本國民の偉いといふことにつきましては、今更ここで申上げることを必要としないのであります。もうこれはお互ひが自覚自諷をしてゐるやうな、さういふ衝動なきことをいふまでもなく、もう現實の大きな問題であります。これがしかし外國の人々の眼から見ると、それに映つた日本國民といふものは、これは實に不思議な、實に恐るべき、また實にわけのわからない國民といつていい、それから驚くべき國民であります。それで今日では、日本國民といふものを研究し、日本を知らうがために、或は日本語の研究といふものが行はれる。また日本の古い文獻、古事記その他、日本の國民の持つてゐるいろ／＼の古い文獻の研究が方々の國に於て行はれつゝある。のみならず、さういふ日本國民といふものがどういふ生活をしてゐるか、つまり國民の生活といふものを知らなくては、日本、また日本國民、日本の精神といふものがわからぬといふわけで、日本國民の生活といふものの研究が行はれる。或は日本國民といふものは米の飯を食つてゐるから、米に一つはえらゐるものがあるのぢやないか。また日本人は着物を着て坐つてゐるから、その坐るといふところに何か意味があるのではないか。或は日本國民は非常に粗末なものを食ふ、梅干しをしゃぶつて味噌汁を吸つてゐるから、こゝに日本國民の偉いものがあるのぢやないかといふ風に、つまり日本の偉いことを知らうがために日本國民の生活といふものが調べられて居ります。しかしこの日本國民の生活といふものは、これはわれ／＼にはもう問題ではない。われ／＼は現にこれを實行して、實際にわれ／＼の生活を行ひつゝあるからでございます。ところがこれが對しまして、われ／＼日本國民にとりまして他山の石として特に注意致したいものは、盟邦ドイツの國民のことです。これを考へますこ

とが、またやがてわが日本の生活をより良くする一つの何かの參考になるのではないか、かういふ意味から致しまして、ドイツ國民生活といふものを取上げることにしたのであります。

實に一九一四年から一九一八年に亘ります、あの第一次歐洲大戰に於きまして、周圍敵を受け、四面楚歌の中に國力を擧げて戦つたドイツといふものが、その結果として、あの元氣であるところの國民、その壯丁の何十萬の貴い生命を戰場に失つてしまつた。それから土地と共に石炭、鐵三百萬噸の、その産地の大部分を失つてしまつたのであります。それから軍隊は殆ど内亂を鎮定することが出来る程度、つまり警察權の行使し得るくらい、その程度に極端に壓縮され、軍艦は残らず取り去られて、さうして軍用飛行機は造ることを全然禁止せられてしまつた。發動機のある飛行機は抑へつけられてしまつて、グライダーで飛ばなければならぬといふ、慘憺たる状態に置かれたのみならず御承知のやうに數千億金貨マルクといふ、驚くべき賠償金を課せられたのであります。これが振返つてみますとやうやつと二十三年ばかり前、四半世紀、二十五年にもならない前のドイツの状態であるのであります。いやそればかりではないのであります。第一次歐洲大戰が一九一八年の暮に終つて、さうしてドイツはどうなつたかと申しますと、それから約十年、引續く悪性インフレーションに經濟、財政の根柢は全く破壊されてしまひました。爾來十年の間には失業率が續出する。一九三三年ヒトラーが政權を獲つてナチス政權が確立する、その一九三三年の一月までの間には、非常な勢ひで失業率が増して、實にその時には全國の失業者六百萬以上を算するといふ、驚くべき状態になつたのであります。このドイツが、一九三三年の一月の終りにナチス政權が確立した後、それから算へまして僅か六、七年、十年経つて居らぬ今日に於て、御覽の通りの隆々たるありさまで、即ち東に對しましては鐵血一獨ポランドを粉砕致しまして、北はノルウェーに作戦し、西はオランダ、ベルジウムを粉砕致しまして、さうして難攻不落を誇つてゐたあのマジノの要塞を一たまりもなく蹴散らしてしまつた。さうして鹿を歐洲の中原フランスの野に追ひ、首都パリの空にハーケン・クロイツの旗をひらめかしたのであります。さうしてこれに果敢なる鋭鋒を加へた、あの隆盛を誇つてゐたところのロンドンの都を死の都に化し、今や一衣の水を経て英本土攻撃のために、將に春季攻勢の勢ひを示してゐるといふ有様であります。また南、イタリアと携へまして、さうしてルーマ

ニア、ブルガリアを通じてギリシアに迫り、バルカンの覇權を今や握らんとしてゐる。かういふやうな状態である。斯くの如くに致しまして、このヨーロッパの新體制の建設といふことに進んで、世界の大きな立役者の一つとなつて、さうして東亞新秩序の建設に邁進してゐるわが日本と相提擧して、世界の新秩序の建設、世界の新體制の確立のために雄々しい足を踏んでゐるのであります。これが振返つて四半世紀の二十五年に足りない間のドイツの偉大なる歩みであります。このドイツ、われわれの信頼し得る盟邦ドイツの、この推移の跡、興隆の跡を思ふ、その時に、またドイツ國民の潑刺とし風爽たるあの英氣を讃仰する時には、またかういふやうなドイツを、かういふやうな意氣を作り出したところのそのドイツ國民の面目を解釋し、またその意義をわれ／＼が知る、そのためには、どうしても以て茲に國民の生活といふものを明かにし、それを知り、把握して來なければならぬのであります。蓋し國民の性情、國民の元氣、國民の思想といふものは、これ要するにその國民の生活の上にこそ基礎づけられてゐるものであるからであります。そこで私たちはこの立派なドイツ國民、恐るべきドイツの國民といふものを知るために、ドイツ國民のその生活といふものを一つ知りたいと思ふのであります。

まづ私たちは、ドイツ國民の生活といふものにどういふものが特徴づけられてゐるか、どんな特徴があるかといふことを考へて、第一にぶつかります。これは、今日日本でもやま／＼言はれて居りますところの科學性であります。科學する心といふことを文部大臣も言はれて居ります。が、とかく日本には缺けてゐるといはれるところのこの科學性といふものが、ドイツ國民の生活の中にじつと滲み出してゐる。この科學性、これがたゞ學問の上だけでなしに、日常のドイツ國民の生活の上に、生活態度の上に現れてゐるといふ、そこでドイツ國民の生活の大きな特色がある。この生活の態度の上に科學性が現れてゐるのはどういふ所かと申しますと、その一つは非常に分析的である。何でもものを細かく分けて、分析して考へる。それから分析したその上、生活にあらゆる部分とたゞそのまゝに受け入れるのでなくして、それを批判する。つまり批判的である。それから分析し批判した上には將來の生活を企畫する。計畫を立て、さうして生活を組み立てて行くといふ、この企畫といふものがある。それから企畫する上には必ずこれは不合理なことを除いて合理的にやる。かう

いふことが生活に現れたところの科學性であります。つまり含めていへば、分析的であり批判的であるといふことと共に合理的であるといふ要素が集まつてそこに生活の科學的な態度といふものが出来て來てゐるのであります。これがまづ一番最初にドイツ國民の生活にわれ／＼が現れる所でありまして、われ／＼がドイツに於て暮して居りました時に於ても、あらゆるものが日本の生活と非常に違つて科學的であるといふことが、彼等の日常生活に於て見てもわかつたのであります。その一々の例を申上げる機會がありませんから申上げません。ところが然らば第二番目のドイツ國民生活を特長づけるものは何かと申しますと、それはたゞいま館長の申された質實剛健、質實である。地味であつて剛健であるといふことでもあります。あのゲルマンの地と、父祖傳來の土といふものにしつかりと結びついた、健全な、強健な風、これがドイツの生活を色づけるところの大きな特色なのであります。この質實剛健の國民の生活の風といふものが、前に申上げましたところの科學性、いはゆるその合理的な生活といふものと結びついて、そこに質素と申しますか、簡素な生活、輪廓がくつきりと整つて、さうしてその中に質實な生活が感られるといふ、さういふドイツの一つの生活が出来て來てゐるのであります。

ところがこの科學性があつて、それから質實剛健であるといふことだけがドイツの生活の全體ではない。更にわれ／＼はこゝに見逃してならない一つの大きな生活があります。第三の生活の特長と致しまして、それは藝術性といふことでもあります。このドイツの人が實に偉大な藝術家であるといふことは、これはどなたも御存じのことでありまして、私が特にこゝで申上げるまでもないのであります。あのワグナーの立派な音楽、ゲーテの立派な劇、詩、そのほか繪畫に致しまして、彫刻に致しまして、また殊に時代の建築に致しまして、も、すべての藝術的な分野に於て、ドイツ人は實に立派な地歩を占めてゐるのであります。けれどもたゞその藝術が、藝術それ自身として立派なものがあるといふだけがドイツ國民の誇りではないのであります。われ／＼がどうして忘れることのできないことは、その藝術が、その立派な高い香りを持つた藝術といふものが、一種特別の風を具へて、ドイツの國民の生活の中に滲み込んでゐるといふことでもあります。即ちそのドイツ國民の持つてゐる藝術性といふものが、一番最初に申しました生活の科學性といふことと、生活が質實剛健で

あるといふことと、この藝術といふ三つが結びつき、非常に合理的な科学的な生活をし、質實剛健であつて、そこにしかも藝術の潤ひが入つてゐるといふさういふ三つのものがすつかり解け合つて、さうしてそこには生活の目的に適つた、生活の實際に即した堅實な藝術といふものが生まれてゐるのであります。藝術そのものの藝術とか、それから藝術を離れてしまつた、たゞ目的の一つの合理的な生活といふ、算盤勘定だけの生活ではない。生活と藝術が結びついてゐる。生活の目的に適ひ、剛健な生活、堅實な生活といふものに即した藝術があるのであります。つまり言へば、剛健な生活ではないのであつて、生活に於ける藝術といふものは、たゞ藝術のための藝術ではないのであつて、生活の藝術である、生活藝術といふものが出来上つてゐるといふことが、これがドイツ國民の生活に於ける一番著しい特色であります。小ざつぱりとした生活の趣味、すつきりした生活享樂の趣きといふのが、ドイツの國民の生活を貫いてゐるところの趣味であります。ドイツ語でゲシャイトといふこととあります。ゲシャイトといふ言葉がドイツ人の生活をよく表はしてゐる。日本で申せば釋だと申しますが、しかし日本語の粹とは違ふので、ゲシャイトといふ言葉は日本語に譯しにくい言葉でありまして、質實で野暮でない、質素であつて野暮でない、小綺麗であつて安つぽくない、小ぢんまりとしてゐるけれども安つぽくない。さういふやうな實に何と申しますか、さういふ生活の趣味といふものがドイツの人々の生活に染み出した藝術であります。つまり生活のための藝術でありまして、しかも藝術を生活の召使としたのではなく、生活と藝術といふものが抱き合つてゐるといふ、生活と藝術の抱合といふものが、ドイツの國民の生活に於ける大きな藝術的な現れであります。この點はほかの諸國と較べてみますと非常に違ふのであつて、いはゆる藝術のための藝術、藝術至上主義といふ風はなく、藝術を心中して生活を確に振つてしまふといふ、さうして國民生活を没却するといふやうな、さういふ傾きのある、とかさういふ工合になりがちな、フランス式な生活と藝術の考へ方ではなしに、また藝術を實生活のほかに味はふ、實生活から離れた閑人とか特權階級の、少數の特別な人々の趣味に合ふ仕事と考へる、たゞ遊い味といふものを好む、遊好みをやるといふ、さういふ、たとへばイギリスの國民のこの藝術と生活との味ひ方とも違ふのであります。況んや金に明かして藝術を製造する、金ピカものに物を言はせる、それ

たことなのであります。かういふものがドイツの方々の郊外、或は郊外にならないう町場の末の方に澤山ある。かくの如きものは簡單なやうであります。つまり生活の中に一つの藝術を持つて來ようといふ生活を藝術としようとする一つの現れであつて、こゝに國民の元氣を養ふと共に國民性の美しい現れがある。これは極く小さなことであります。それから皆さんも御承知の通りにナチス政權がいろいろな方面に於て活躍して居りますが、その一つの面として働く人の住宅、俸給生活者、勤勞生活者の住宅問題の解決といふものは、これは日本に於けると同様に、ドイツに於ても大きな問題であるのであります。これは郊外の住宅でありまして、ドイツに於ても大きな問題であります。それは郊外の住宅でありまして、日本に於けるあのいはゆるアパートといつたやうな、あんなものとは全然違ふのであります。太陽と空氣と土とが、さういふ三つのものの中に、それと調和した生活を營ませるやうな住宅を都會から離れた所に立派なものを建てまして、さうして住宅は設計そのものが太陽と空氣と土とに親しめる設計にしてあるばかりでなく、住宅と周囲との關係は一つの立派な藝術品となつてゐるのであります。こゝに今日働く人々の生活を置いて、こゝで立派な自然と融け合ふ、太陽と空氣、土と抱き合つたところの剛健な、立派な生活を築き上げさせようとしてゐるのであります。ドイツが僅かな間に國民の中に立派な力を得たのは故なきにあらずと思ふのであります。それからもう一つは皆さんもよく御承知の通りに、今日ドイツに於てはカー・デー・エフの運動といふものが盛んに行はれて居ります。カー・デー・エフといふのは本當は「喜びを通して力へ」といふ意味であります。働く人々の中に財安と娛樂と藝術、スポーツを取り込んで、さうしてこの働く多くの國民の間に、歡喜と創作を通して國民に力を獲得させようとする運動なのであります。しかもこれが實際ドイツ國全體に、國家の力をもつて、國家の一大施設を通して、數百萬のドイツの働く人々の生活に呼びかけてゐるのであります。カー・デー・エフの運動は、日本に於ても近頃盛んにこの叫びが起つて居りますが、ドイツはこの點に於て非常に大きな仕事をして居ります。カー・デー・エフの仕事については、これを取り上げて十分にお話を申上げたいと思ふから、實に大きな業績を擧げてゐるのであります。このやうに致しまして生活藝術と申しますか、かういふ一つの國民の生活態度といふものがいろいろな方面に現れてゐるのであります。

で有頂點になるといつた、あのヤンキー式な考へ方とは全然違ふのであります。こゝに實生活と藝術との抱合、日常生活と美との融合ひ、さういふ一つの生活藝術といふものがドイツ國民の中に入り、ドイツ國民がかういふ生活藝術といふものを持つておる、また言ひ換へれば藝術生活を持つてゐるといふことが、これがドイツの國民生活の非常に著しい點でありまして、即ち生活中心の美と生活を中心として考へた物の美しさ、用即美と申します。先程館長のお話がありました。實用があるもの、實用に適つたものが美である、實用を違さかつて美がないといふ考へで、美といふものは實際生活から離れたものではない。閑人の考へ方から離れて、ドイツ人の考へ方は、生活の用に足るものこそ立派な美である生活の用に合つたものでなければ美の價値がない。用即美であるといふ、さういふ境地を體得してゐるのがドイツの人々の美に對する考へ方であると同時に、ドイツ人の生活把握の大きな特色であります。即ち用即美もつと簡單に言へば、そこには簡素の美といふものが出来て來ます。今日わが國時局下に於て叫ばれてゐる本當の美といふものは簡素の中美しさといふ言葉があります。これはそのドイツ人の長い間の生活に染み出されてゐる特色であります。かういつた生活の趣きといふものは、藝術を生活の中に持つてゐるといふこの趣きは、ドイツ人の生活のあらゆる方面に現れて居つて、これを窺ふことが出来るのであります。この例を澤山申上げてゐると時間がございませぬから、二、三申上げます。たとへばドイツの大都會の場末に參ると、少しく空地のある所に參りますと、十坪或は二十坪程度の小さな空地を仕切りまして、さうしてそこには日曜や祭日のお天氣の好い日になりますと、家族連れの人たち、また労働者の人たちにしましても、さういふ休日には牛乳を入れた燗やパン、コーヒー、それからバター、ジャムなどをバスケットに入れてそこへやつて來る、さうしてそこでもつと極く小さな空地を利用していろいろな草花を植ゑたり、いろいろな野菜を植ゑたりして居ります。そこを耕し肥料をやる。さうしてそのあと、家族の者が小さなバラツルの下や、簡單な四阿のやうなものが出来てゐる。そこでコーヒーを煮てパンを切る。そのあと簡單な椅子の上に横になつて本を読む。ハモニカの好きな者はハモニカを吹いたりしてゐる。さういふやうなことをシュレーパー・ガルテンと申しますが、このシュレーパーといふのはライプチヒのお醫者様でありまして、このお醫者様が發明し

するが、特にその中で端的に生活藝術といふものが現れてゐるのは何であらうかと申しますと、これは申すまでもなく産業工藝であります。今日こゝで問題になつて居ります。この展示會の目標でありますところの産業工藝であります。ドイツの各地に於ては、昔から傳來の工藝、趣味深いところの工藝が、古い都のニールンベルクの歴史のあるところの工藝、算へれば數限りもなく各地の方々の趣きを具へたその土地傳來の工藝があります。これがみな昔ながらの傳統の誇りを日用品の趣味に活かしてゐるのであります。ビールの栓であるとか紙切りナイフであるとか、鉄であるとか、ブツク・エンドといつたやうな、いはゆる日常生活にそれを装ふところのいろいろな器具に至るまで、昔ながらの傳統の誇り、それに美しい工藝の香りが香つてゐるのであります。かういふ點はわれ／＼が注意しなければなりませんので、とかく各地の郷土工藝とか郷土藝術といふものが、或は非實用的な玩具を作り、低價趣味なげても、趣味にははるといふことが多いのであります。かういふものぢやない。またよく郷土工藝と申しますと、金持や特權階級の趣味にははる、暇つぶし、贅澤を飾るところのお相手といふものに墮落しがちなものであります。ドイツの各地にあるこの香りの高い昔ながらの工藝といふものは、日用の實用品となつてドイツ國民の毎日の生活の中に食ひ込んでゐるといふことは、實に羨ましい點であります。それからドイツは御承知の通り新しい科學工業の發達してゐる國であります。新材料に依つて新しい生活目的のために新しい模様の新工藝品が作られて居ります。セルロイド、合成樹脂、人造皮革といつたやうなもの、そのほかいろいろなガラス類に致しまして、各種の性質を持つた新しい資材、材料に依つて、新しい生活の目的に適ふやうな日用品がどん／＼作られてゐるのであります。これがドイツ國民の國民生活に現れてゐるところの生活藝術といふものは非常に大きな現れであります。しかもこれに對して全ドイツの爲政者はどういふことをしてゐるか。ドイツの指導階級がこれに對してほんやりとして對しまして非常に意識的な運動、意識的な施設、對策を思ひ切つて行つてゐるといふこととあります。その一つは美術工藝團體といふものがずつと昔――ずつと昔と申しまして、殆ど今から百年くらゐ前、或は六、七十年くらゐ前に

ドイツに起りまして、美術工藝といふものがそれまで特権階級や暇つぶしの相手であつたといふことから脱却して、國民全體の生活に美術を入れて來なければならぬのだといふ運動が起つたのであります。この美術工藝運動、今日の言葉でいへばむしろ産業工藝運動といふ言葉が適切なのであります。さういふ運動が起つた。つまりその目的の一つは國民全體の生活といふものを趣味藝術でもつて擴充させようといふことと同時に、今度は輸出品に十分な美的な要素を加へることに依つて輸出品の品位を高めて、さうして外國に對してドイツの製品を十分に供給しよう。さうして外國の貨幣をドイツに持つて來る。つまり一つはもつて國民全體の生活を豊かにすると同時に、外國への輸出を旺盛にさせようといふことを企圖して、今から百年近い前に美術工藝、産業工藝の運動といふものがドイツに叫ばれて、著々行はれたのであります。その後効果を著々として擧げることが出來たのであります。ところがなほもう一つ、ドイツの指導階級、爲政者のやつてゐる仕事を申しますと、先程申しましたカー・デー・エフの運動の中に、特に美術工藝展覽會といふものが取上げられて居ります。カー・デー・エフと申しますのは、つまり工場、鑛山の職場に居ります人々、それから農山漁村に働く農民を對象として、團員として結ばれた、國家的な一つの團體であります。これに對してのいろいろな先程申した娯樂、慰安、スポーツ、それと並んで美といふものを生活の中に送り込むのであります。その一つの手段とした美術工藝展覽會を工場の中で開き、いろ／＼な工藝者の作つたところの作品を、工場の中の集會所とかいたやうな所に飾つて、休みの時間に労働者諸君に見せると同時に、また労働者自身、労働者自身の作になる工藝品もそこに陳列して、さうして兩々相俟つて労働階級の中に美術の考へ、工藝の思想を涵養してゐるのであります。いま現にやりつゝある、さうして非常に大きな運動であります。なほもう一つ特に私たちが忘れてなりませんことは、今日ナチスがあらゆる商工業の經營を立派なものにしたいといふ、模範經營といふ一つの制度を作りまして、つまり一年間にこの商工業その他すべての經營に亘つて、その中で國家の模範となるべきものを模範經營といふ名前を以てそれを表彰することになつて居ります。それが毎年五月一日——いはゆるメーデーであります。國民労働日といつて居ります。この日には行はれる。昨年、一九四〇年の五月一日に於きましては、あの有名なドイツの鋼鐵を作る、

武器を造るエッセンのクルツの工場で模範經營の表彰式が行はれたのであります。さすがに戦中中でヒトラー總統は出席出來ませんでした。ヒトラー總統の代理と致しましてヘス副總統が出て、そこでいろ／＼の九十八の模範經營者を表彰したのであります。その中にはエッセンのクルツの工場であるとか、エンケルス飛行機發動機工場とか、また富山の有名なカール・ツァイスの工場、ライン・ウエストファリア、それからポルトランド・セメントのウエツテナウ工場といったやうな、さういふ工場が模範經營として表彰されたのであります。その九十八の中の一割以上、十件まで産業工藝をやつてゐる工場が表彰されて居ります。鐘を作るとか、金屬細工を作るとか、皮革製品を作るとか陶器、机、流石品、被服類といった産業工藝に携はつてゐるところの工場が、九十八の中の十までも占めてゐるといふことは、もつて今日戦時下のドイツといふものが、どんなにこの産業工藝を重く見てゐるかといふことを示すものであります。戦ふばかりが戦争ではない、戦ふことをよりよくさせるために國民の元氣を伸張させ、擧つて國家總力を擧げて國難に當らなければならぬといふ考への上に、ナチス政府はさういふやうな工合に、一見工藝とか美術とかいへば閑人の仕事であるかの如くに曲解されるのに、九十八の中で實に十個までもさういふことに關係した工場を表彰するといふ、われ／＼はこゝに非常に大きな教訓を得るのであります。こゝにナチス政權の慎重なる用意を考へなければならぬのであります。

而して振返つてこの會館の第五階で催されて居りますところの、今日この時局下に於て開かれた産業工藝展覽會といふものは、非常に大きな意味があるといふことを認めなければならぬ。たとひドイツのこれよりは小さい意味であらうとも、この時局下に斯くの如き展示會が開かれたといふことに、やはり日本國民の非常に大きな誇りがあるのではないと思ひます。

こゝに私達は振返りまして我が國のことを一つ考へて見なければならぬ。たゞ徒らにドイツばかりを讀んで、ドイツばかりを讚美して、さうして我が事了れりとなすことはいけない。わが國にも實にかういつた産業工藝の華やかさを起して來なければならぬ。産業工藝の華を開かせるやうにしなければならぬといふことを痛切に感ずるのであります。しかも日本人の生活といふものを日本人の天から授けられた立派な素質といふものを考へて來る時に、一層産業

工藝といふことを考へざるを得ないのであります。由來日本國民といふものは美的趣味の豊かな國民であります。非常に細かい所に繊細な美を認める國民であります。あの小さな野の末に咲いてゐる花をも模倣化して、自分の家の大切なる紋にするやうな床しい國民であります。原つばの隅つこの雜草の間に咲いてゐるかたばみといふやうな小さな、しかも花でなく葉つばを立派な模倣にして、粹な模倣にして、背中につけて、家の紋として飾つてゐるところの國民が實にわが國民なのであります。しかも國民精力の涵養、國民の氣合、意志といふことが今日この時局下ほど痛切に要求されてゐる時はないのであります。而してそのためにはどうしても生活の藝術化といふものに依る美的生活の誕生が、特に今日は要求されてゐるために、どうしても、先程館長のお話がありましたやうに、健全明朗な産業工藝といふものが實現致しまして、わが國民全體の生活の美化といふことに貢献することを私はどうしても切望せざるを得ないのであります。さうしてまたその國民に特に與へられてゐるところのこの美的な天資、資性を、獨特の工藝の中に挿入致しまして、さうして立派な工藝品を生産して、わが國の輸出といふものに一つの新しい生命を開拓して行くといふことを、また熱望せざるを得ないのであります。かうなつて参りますと、ドイツ國民の生活と産業工藝といふこの關係は、取つてもつて直ちにわが日本國民生活と産業工藝とならざるを得ないのであります。でありますから、これは私のお話は、遠いドイツの話ではないのであります。特に私たちの眼の前に展開されてゐるところの現實的な問題であることを御注意申上げて、私のお話を終ります。

### 國防國家と國民生活

情報局第二部第二課長  
海軍大佐 大 熊 讓

近代戰の傾向は大體に於て長期戰であります。従つて國內のあらゆるものが長期戰、持久戰かういふものに耐へられるやうにして行かなければならぬといふことは皆御承知の通りであります。我が國は支那事變勃發以來三年以上

になりませんが他の交戰國に比べれば實に餘裕々たるものがあります。昔の舊體制の考へ、舊い自由主義や個人主義の考へ、さういふ考へでやつて行けばどうも色々不自由も感じられるのでありますけれども、併しながら考へるの持ちやう、心構へに依つて幾らでもまだ餘裕はあるのであります。現に私が申上げたのは世界の強國の中でもつて今一番樂なのはアメリカでございます。その次は日本である。さういふことを私は事實に依つて申上げることが出来るのでございます。

そこでドイツの御話は今ございましたからして、二、他の強國の状況等を簡単に申上げますといふと、あのソビエトであります。ソビエトといふ國は、最近歸られた色々の人の話を綜合するに、あの國は今戦争はやつて居りませんが、戦争をやつて居る以上に國防國家といふことに對してやつて來たのであります。第一、第二、第三次の産業計畫をやり、又今日の新聞を見ますと更に十五年間の計畫をやるさうであります。從來ソビエトのやり方は重工業に對する偏重でありまして、飛行機であるとかタンクである、大砲である、軍艦である、さういふやうな工業に向つては非常に努力して居ります。輕工業、生活必需品、民需品さういふものに對する手當といふものが閉却され、従つてこの方面に對してはドイツに比べて二十年も遅れて居るといふ人もあります。ところが現に最近歸つて來た人の話を聴きますと、モスクワ以外には殆ど砂糖がない、煙草がない、青物が無い、果物が無い地方が到る處認められる、かういふ状況でございます。私共砂糖のない生活はどの位苦しいのか想像が出來ませんがその位ソ國では物資が窮乏して居るのであります。従つて田舎の各地からモスクワに居る知人に頼んでこつそ砂糖を送つて居るものがある。それがいつか最近政府が規則をつくつて之を止めたのであります。それでコーカサスの地方に参りますと野には煙草の葉が澤山ありますけれども、町には紙巻煙草一本賣つて居ない、又ウラジオに三ヶ月も生活して居たが砂糖も煙草も青物もなか／＼手に入らないといふ状況であります。又モスクワに参りますと丁度三越のやうな大きなデパートがあります。そこに夕方五時半か六時になつても未だ長蛇の列をつくつて待つて居る、一枚のシャツ一足の靴下を買ふのに長い列をつくつて待つて居る、縮切時間が來て今日はいよいよ到底買へないといふことが分つて居つても待つて居る。ソビエトに参りましてシ

ペリヤ鐵道などに乗つて居りますと、譯に着くやロシヤ人がどや／＼と入つて来て日本人の顔を見ると、シガーをくれ、シガーをくれといつてせがむ。かういつた状態であります。ソビエトでは国内状況が國外に漏れるのを恐れて居りますからしてなかく、他の國に分らないのであります。實際は民衆といふものが極度の窮乏に喘いで居る。

一方イギリスではどうかと申しますとイギリスは昨年九月頃迄は大體にたいした不自由もなかつたバター、チーズ、ハム、ベーコンといったやうな脂類が不足して居る程度でありましたが昨年七月頃からドイツの潜水艦、飛行機が段々と攻撃を機烈にやりまして昨年暮までに大體毎月四五萬噸のイギリスの艦を撃沈致しました。従つて段々物資が苦しくなり今や食糧統制は二十種類に及んで居る。日本では今迄の食糧統制は砂糖位これから米がなるといふ話を聞きませんが兎に角イギリスではもう二十數種類の食糧統制をやりまして非常に苦しんで居る。従つて前回の歐洲戦争よりもつと苦しい状態なのである。けれども御承知のやうにあゝいふ頭強な、靱強な國民でございますから、まだ／＼戦意は相當あるやうであります。實際は彼等は非常に苦しんで、ドイツの状況は今詳しく御話がありましたので申上げる必要はないと存じますが、最近日本へ参りましたヒットラー・ユングと或海軍の大先輩が一緒に旅行をされた、その時の觀察談をして居られるのであります。それが依りますとヒットラー・ユングの色々やつた行動に心がけのよいことが澤山ある。

この話は有名な話でござい、ますから御承知の方が澤山あると思ひますが煙草を吸ふ時は大體同じ時刻に吸ふ、勝手に吸へばマツチが澤山いつて無駄になる。それで少しのマツチですませる爲に同時に吸ふのであります。そのマツチのすり方も箱の端の方極く一部分です。さうして大きくグンとやらすに端の方でやる、さうすればマツチが空っぽになりましてまだ箱のあのする部分が残つて居るそれを製造所に送り返して再び使ふのであります。それから下ノ關でバナナを買つて興へたところがその皮は包んで持つて居る。それを途中汽車の窓から畑の中に捨てて居る。どういふ譯かといふとバナナの皮一つでも畑の中に捨てればこやしになるからだといつたさうであります。又鉛筆は芯は削らない、鉛筆は芯を削るとどうも早く消費する。そこで鉛筆は木だけ削つて芯は削らない。従つて餘り小さな字は書かない。小さな字を書くくと近眼になるといふ。

いふ國の經濟力は大體判るが精神力に依る要素が加味されるから持久力を推斷出来ない。これは彼等自身が告白して居るのであります。物々として申すが物の消費とか生産とかいふ方面に對して一番大きな要素は精神力であります。例の支那にかういふ逸話があるのでござい、ます。或る日本の外交官の方がまだ支那事變の始まる前に廣東方面に居りまして支那の有名な軍閥の巨頭と會つたその時に日本の外交官は支那は羨ましい、國である、國土は廣いし物資は色々なものが豊富であつて洵に國に羨ましいといつたところがその軍閥の巨頭は答へて曰く「さうではない支那といふ國は物資は豊富ではない支那といつて豊富なのはタイムである、時である、つまり焦らずに漫漫的にやつて行くといふこの氣持、三千年來流れて居る此の時といふものが豊富である」といつたさうであります。そこで我が國の國民性を考へますのに、これは先づ日本は從來餘り長期戦の経験がないのであります。歴史を振り返つて見ますとあの蒙古來、北條氏時代の蒙古來、前後二回やつて來たのでござい、ます。その間に七年も八年もたつて居る。この時には大きな戦争でありまして北條氏が命じて北九州に防備をやり、日本全國民がこの國難に當つたのであります。その時如何に質素儉約にしたかといふことは小學校の歴史に出て居りますが兎に角蒙古來の他には持久戦の経験がないのであります。そこで日本の國民性に於きましてはもつと／＼長期戦に對する鍛錬をする必要があるでござい、ます。日本の國民性の長所をとりますれば世界に冠たるものがあるでござい、ます。日本の國民性の長所はドイツのヒットラー總統を初めドイツの幹部が我が國の國體や國民性の長所例へば大和魂とか武士道といふものを非常に研究してドイツの國體を作りあげドイツ國民性をよくやつて行かうといふことを研究して居るのであります。一例を申上げますと我が國には靖國神社といふものがござい、まして、これに戦死をされた方々がそれ／＼鄭重にお祀されて居るのであります。外國にはあゝいふものはない、屍は戦地に置放しにして、さうして後から無名戦士の墓とするのは工合が悪い、われ／＼は日本の眞似をして靖國神社の様なものをつくらなければならぬといふ聲さへドイツ國內に起つた位でありましてその他日本の神道といふものを研究しこれからドイツの勃興ドイツの發展に非常に貢獻のあつた人達を、まあヒットラー總統などさうでせうが、さういふ人達を神と崇めて尊敬するといふ、傾向さへあるのであります。併し

大きな字を書く紙の浪費じやないかといふとドイツにとつては鉛筆の芯である鉛は非常に大切である。貴重品である。だから特に鉛筆を大切にするのであるといつて居るさうであります。このやうな片鱗に於きましても彼等の心がけが分るのであります。彼等は異口同音に日本は餘削がある、日本は三年も戦つてその上に物資が豊富であるといふことは何と羨ましいことであらうかといつて日本を褒めて居る。その中でもつて一人は米の研究をして居る。米の生産配給をすつかり研究して居る。どうして米の研究をして居るかといふとパンよりも米の方が戦地に於て具合がよいパンよりも簡単に持つて行つて食へる。さういつて米の研究をやつて居るのであります。

イタリーといふ國は大體物資の乏しい國であります。現在その不自由さは日本の比ではないのであります。戦争が始まると「市内の鑛山を掘れ」といふボスターが町の方々に出る。山の鑛山を掘るといふことはあります。都會の鑛山とは何事ならんと思つて見ると、町にある色々な金屬類を刻してスタラップとして使ふ。又再生して使ふ。日本は三年半も戦争をやつて居りますがまだ町には鑛山不用な鐵屑類がござい、ます。これから段々と處分するべきものだと思ふのであります。随分まだ都會には鑛山があるやうに思ふ。

さういふ状況であります。一體民族的に見まして北方民族といふものは計畫性に富んで居る。これに反しまして南方民族といふものは割合に行き當りばつたりであります。日本は北方民族も南方民族もあり兩方から來た民族であります。北方民族は原始時代から考へましてもそれは牧畜をやつて居つた。そして牛一頭を殺すにもこれを殺せば何人で食へる、何人集つた時に牛を一頭殺せばよい脈を殺せばよいといつたやうに計畫性を持つて居るのである。然るに南方の方は木の實や魚か、ういつたものを勝手な時に取つて來て自分だけ食ふ、自分だけ一人前あればそれでよいといふのです。それから大體南方民族といふものは計畫性に乏しいのでござい、ます。われ／＼と致しましてはこれから長期戦に於きましてはどうしてもこの計畫性といふものを立派に持つてやつて行かなければ長期戦に對する備へは困難なのであります。

そこで物の方面に對してはこれは館長始め色々お話もござい、ましたし特に申上げる必要もないのであります。私は國民生活上精神力といふことを特に申上げたのであります。何となれば或る外國の者が申して居りますが、日本と一面に於て日本國民性の短所をとつて見まするとこれは色々具合の悪いところがござい、ます。この點は段々と直して行かなければならぬと存じます。

つまり第一には短氣、焦燥、飽き易い、感情にはしり易い、デマや暗示にかゝり易い、かういふ點、これは特に直さねばならぬと思ひます。昔日露戰の時、ウラジオに居つたロシヤ、グロンボイといふ軍艦が東京灣の沖にやつて來たといふデマがとびましてそのデマによつて相場が非常に騰貴したといふことを聽いて居りますがさういつたデマにひつかり易い。現在も國內には蔣介石の手先や敵性國家の第五列が相當居りまして、本當に噴飯に堪へないやうなことをいくらでもデマとして放送する。またそれをまことしやかに傳へる。悪意があつてやるのではないのだからうけれどもそのやることが大切であります。私は昨年の九月に神經戦争といふことについて放送したことがござい、ます。日本人はもつと神經を太くし、もつとどつしりと心臓を強くしてやつて行かなければならぬといふことを申上げましたが、さうでないといふところからの戦争は神經がささらの如くなるやうなことをばかりを仕向けようとする敵性國家の手先が非常に多いのであります。短氣焦燥飽き易いこの點を先づ直さなければならぬのであります。建設的に批判してそれをもつて善導しやうといふならばよろしいのですがたゞもう破壊的な批判をやりにつけたがごとくやつたやうなことを、これはたゞ捏ね廻すばかりで少しも能率は上らないのでござい、ます。日本といふ國家は一つの大きな船のやうなものであります。今それが嵐の中を進んで居る。その時に日本國民のめい／＼が傍觀者的態度をとつて見たり或は批判的態度をとつて居つたらどうであります。自分達もその船に乗つて居るのであります。船が沈めば自分達も沈んでしまふ。さういふやうな譯でござい、まして、この嵐の中につき進んで居る船、その船に乗つて居るものが傍觀的な自由主義的な態度をとつて居るといふことはいけないのであります。宮本武蔵の傳記を讀まれた方はござい、ませうが宮本武蔵がいよいよ最後に瀧流島の試合に臨みます時に丁度その前に或る婦人からロマンスをもちかけられた、又或る大名は高嶽を以て召し抱へやうとして來た。併しながら彼は大試合に臨む前にはロマンスも捨て、仕官も捨て、雑念を振切つて、純一無雜の精神をもつて試合に臨んも

907  
169

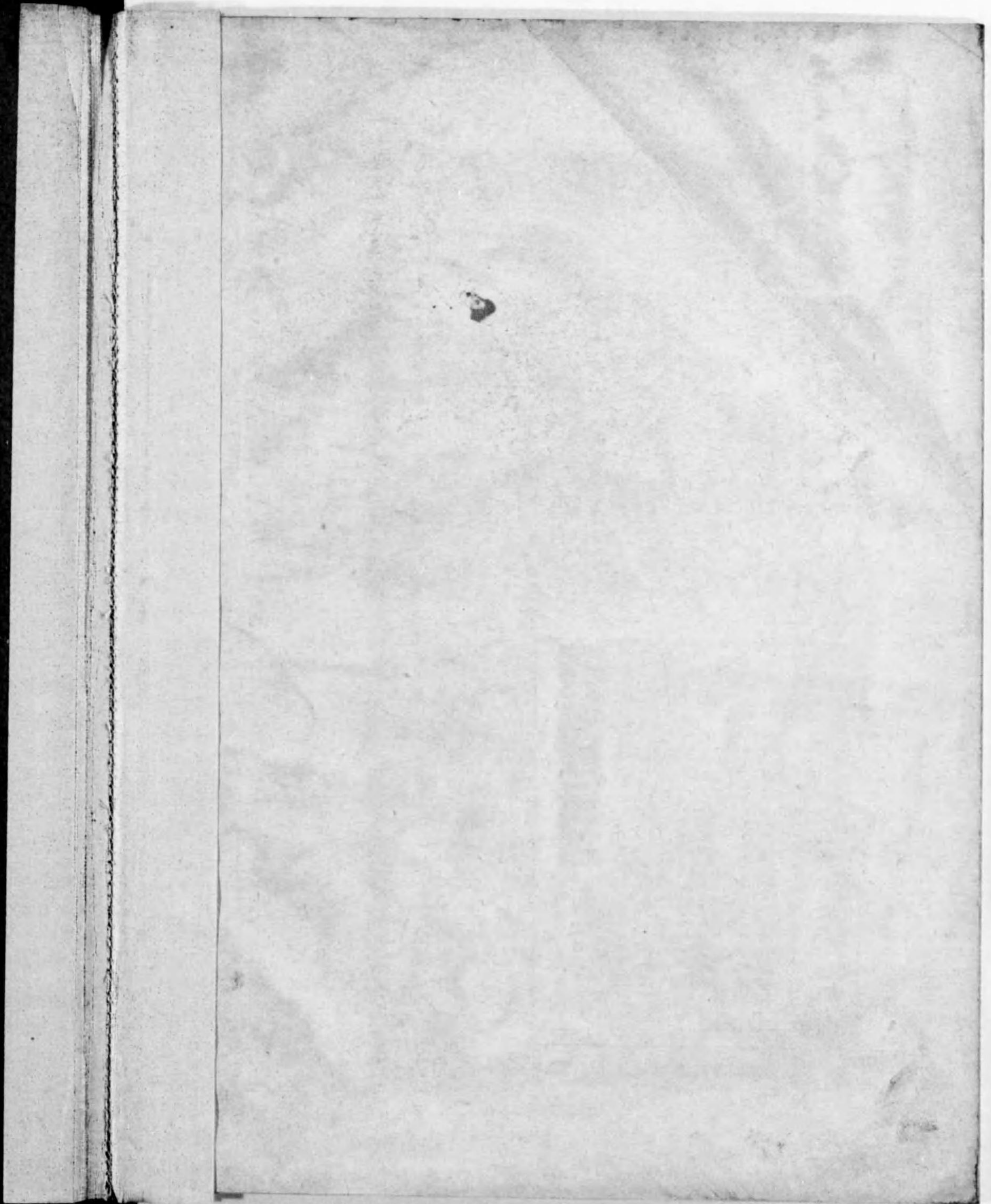
のであります。これに反しまして佐々木巖流は剣をとつては天下の名人ではございませぬけれども、宮本武蔵がやつて来るのが遅れたのでじり／＼して齒噛みして待つてゐた。この短氣焦燥の氣持が彼の負けた原因なのであります。要するに大戦争にぶつかつた國民といふものは純一無雜の精神を以てこれに當らなければならぬ、自己の野心、自己の欲望、さういつたやうなことに囚はれてめい／＼が勝手なことをやつて居つたならば大試合はいかんであります。その點は氣をつけなければいかんと思ふ。そこで今の外交といふものは松岡さんが議會で演説を致す、或は野村大使がワシントンで交渉をする、これだけが外交ではないのでございませぬ。外國のスパイは鶴の目鷹の目でもつて日本に注意をして、さうしてあらゆる動向を掴へましてどんどんと本國に報告して居る。日本の色々な事情が松岡さんの言明を裏切るやうなことがあれば喜んで本國へ報導するのであります。外務大臣はかういつて居るが日本の大衆はどうだ學生はどうだかういふやうな有様では彼等は強くないであらう大戦争は出来ぬであらうといつてやる。さうするとつと壓迫してやれ、あれは演説に過ぎない、本當の吐はあんなものではないのだらう、大戦争は出来ぬであらう、だからもつと壓迫してやれもつと壓迫してやれ、かういふやうな具合になるのであります。我が國家が一つの齒車の如く一致して堂々と進んで行くならば、もう何もいはない、でも外國の方では、敵性國家はこれはどうも油断がならん、うつかり壓迫したら日本の決意は怖い、凄みがある、筋金がいいつて居るといふので、これはうつかりと壓迫は出来兼ねる、かういふやうな氣持をもつのでございませぬ。要するに純一無雜の精神で大試合に臨んだといふ宮本武蔵の精神といふものは現在の日本人が大いに學ばねばならない所と存じます。私は物といふ方面と併せて精神的要素の重要さ、この點を特に強調してお話を終りたいと思ひます。

昭和十六年六月三日印刷  
昭和十六年六月八日發行

(非賣品)

東京市麹町區丸の内三丁目一番地  
發行所 東京府立工業獎勵館  
東京市麹町區丸の内三丁目一番地  
編輯兼 手塚留吉  
東京市京橋區東區四丁目四番地七  
印刷者 北川武之輔  
東京市京橋區東區四丁目四番地七  
印刷所 株式會社細川活版所

907  
169





終